

++ 看護部

はじめに

令和4年度はCOVID-19、6波の真ただ中で始まり、次に襲ってきた7波・8波の荒波をともに受けてしまった。一時職員は疲労困憊の状態であったが、年度末には荒波が収まり日常に戻りつつあると実感した1年であった。COVID-19との闘いは「好生館とCOVID-19の990日」に看護体制として掲載しているのでご覧いただきたい。

1年間の看護部の活動について、右記に示した看護管理目標の大項目に沿って概要を示す。

目標1の学習する組織を目指したキャリア支援では105名の看護師がレベル（レベルⅠ～Ⅲ）認定を受けた。自己能力・研究能力向上では院外発表が28題と前年度の21題を大幅に上回った。年間を通して行っている院内発表の内容も明らかにレベルアップした。また、看護師特定行為研修においては救急と術中麻酔管理パッケージ研修修了者が各2名誕生し活躍している。新年度には修了者が19名となる予定である。昨年度から取り組んで来た「看護管理者研修」は、副看護師長を対象に9回/年実施した。更に人事評価制度の運用に向けて行った「目標管理研修」で学んだ面接技法は今後活かせる内容である。

目標2の健全経営への積極的な参画では、COVID-19患者の受け入れを第一に考え調整した。その結果、病床利用率78%、稼働率86.3%で病院目標は達成できなかった。しかし、今年度から新たに用いられた指標、DPCⅡ期越え30%未満は退院支援ナースの活躍もありクリアすることができた。更に令和4年度診療報酬改定に対する取り組みでは、迅速対応チームに専任看護師を配置し急性期充実体制加算を取得した。現在、長年の懸案であった看護職員夜間配置加算16:1の取得を目指し準備中である。

目標3の業務改善、業務整理の推進では、看護補助者の教育と業務改善を最重要課題として挙げ、教育担当副看護師長会議のメンバーが中心となって取り組んだ。また、各部署、各委員会も1年間の目標として取り組み結果を出している。問題の山積していた持参薬管理方法は、薬剤部と協働し検討を重ね改訂した運用方法を2月に開始した。しかし、院内統一した運用がなされていない等、問題が明らかになったので今後の改善が必要と考えている。看護業務のICTの利活用では、8月に持続インスリン静脈注射システムの導入、11月にバイタルサイン医

療機器連携の導入を行いバイタルサイン入力遅延時間は明らかに短縮した。更にRPAによるデータ抽出など医療情報部の看護師の活動で進んでいる。

目標4のその他として新設した実習指導委員会では、臨地実習マニュアルの改訂を行い、実習効果を上げることができた。その結果、各看護学校からの実習環境に対する評価が上がった。また、MSWの組織体制変更に伴い看護部に依頼のあった退院支援ナースとMSWとの協働では、担当の見直しやフォローの整備等を行い定着した。専門・認定看護師活動の拡大では、年度末に行った、「受持ち看護師とリソースナースの協働」では、コラボレーションの実際が見える質の高い発表が見られた。一人ひとりが大切にされていると実感できる職場環境では、コロナ禍においてスタッフのメンタルヘルスが常になった一年であった。コロナ対応や職員の感染等で職場の勤務環境の改善を訴える職員も散見されたので真摯に受け止め対応した。

以上のことから看護管理目標はほぼ達成したと考える。しかし、残念な事に3月に労働基準監督署からは正勤告を受けた。このことは看護管理者として大変重く受け止めている。来年度の最重要課題として次の管理者に引き継ぎたい。

<令和4年度の看護管理目標>

1. 学習する組織を目指したキャリア支援
 - 1) 看護職キャリアラダーの定着
 - ①看護師個人に合ったキャリア支援
 - ②「自己教育・研究能力」向上への取り組み
 - 2) 看護師特定行為研修の推進
 - 3) 中間管理者を対象にした看護管理研修の継続
 - 4) 人事評価制度の理解と運用に向けた準備
2. 健全経営への積極的な参画
 - 1) 病院目標を意識した病床管理
 - ・病床利用率 80.1% (360.5人)
 - ・病床稼働率 89.0% (400.5人)
 - ・DPCⅡ期越え 30%未満
 - 2) 令和4年度診療報酬改定に対する取り組み
3. 業務改善、業務整理の推進
 - 1) 看護の専門性発揮のためのタスクシフティングを目指した看護補助者の教育と業務改善

2) 業務量調査結果を活かした業務改善

- ①各部署の現状把握と業務改善
- ②多職種と協働した持参薬管理方法の検討
- ③看護業務におけるICTの利活用

4. その他

- 1) 実習指導委員会の新設
- 2) 専門・認定看護師活動の拡大
- 3) 一人ひとりが大切にされていると実感できる職場環境の提供

(文責：佐伯 悦子)

年 齢	人 数
20歳～29歳	204(35.9%)
30歳～39歳	170(29.9%)
40歳～49歳	126(22.2%)
50歳～59歳	59(10.4%)
60歳～	9(1.6%)
合 計	568名

- ・男性看護師 55名 9.4% (前年度 10.0%)
- ・平均勤務年数 10.5年 (前年度 10.4年)
- ・既婚率 52.3% (前年度 47.9%)

I. 看護職員に関すること

1. 看護部職員構成等 (令和4年4月1日現在)

- 1) 助産師・看護師数 584名
 - 助産師 21名
 - 看護師 563名
 - 期限付看護師 (13名)
 - 臨時看護師 (3名)
 - ・4/1付採用 助産師・看護師 25名
 - 内訳) 助産師 新卒：1名
既卒：0名
 - 看護師 新卒：24名
既卒：1名

2) 看護部組織

- 看護師・助産師 584名
- ナースエイド 59名
- 病棟クラーク 14名
- 外来受付事務 16名
- 院内ポーター 3名
- 病棟保育士 1名
- ボランティアコーディネーター 1名
- 期限付事務 1名
- 総計 679名

3) 免許所有者

- 看護師免許 584名
- 助産師免許 28名
- 保健師免許 34名

4) 離職率 (日本看護協会実態調査算出法)

令和4年度 7.9% (前年度 5.2%)

5) 職員状況

- ・平均年齢 35.2歳 (前年度 34.8歳)
- *再雇用8名除く

2. 妊娠・子育てに関する支援

《育児休業の状況》

項 目	令和4年度	前年度
育 児 休 業 取 得	79名 今年度入 33名	74名 当該年度入 29名
年 間 休 業	18名	23名

《育児休業復帰者の状況》

項 目	令和4年度	前年度
育 児 休 業 復 帰	30名	23名
平均育児休業期間	17.1か月	17か月

《妊娠・育児に関する支援制度利用状況：延べ》

項 目	令和4年度	前年度
育児休暇	18名	21名
育児部分休業	44名	41名
育児短時間勤務	25名	15名
合 計	87名	77名

《深夜勤務制限の状況》

項 目	令和4年度	前年度
深夜勤務制限 (育児)	17名	9名
深夜勤務制限 (妊娠)	3名	12名

3. ナースエイドの夜勤導入

昨年度に引き続き、夜間の看護ケアを充実させるため、ナースエイドの夜勤増員とトワイライトナースエイドの雇用促進を進めた。トワイライトナースエイドは、殆どが看護学生であるため実習による長期の休みを適宜把握し、迅速に対応する必要があった。平均在院患者数が300人を超える日も間近であるため、夜間急性期看護補助体制加算100対1の堅持のため夜勤時間の確保が喫緊の課題である。

(文責：淵上 直子)

Ⅱ. 活動実績

1. 看護部

看護部目標の達成に向け取り組んだ内容をまとめると共に、取り組んだ事柄について述べる。

1) 学習する組織を目指したキャリア支援

①看護職キャリアラダー定着について

看護職キャリアラダー導入2年目となり、ラダー定着に取り組んだ。ラダー認定は別項目参照（認定人数は、はじめに、教育運営委員会）、部署間の温度差が見られ、今後の課題となった。また次年度からⅠ～Ⅴ全てのレベルの認定を開始するために、レベル認定プロセスを再整備し、認定要件の修正を行った。更に学習する組織を目指すために、レベル認定の5年毎の更新制度を導入することにした。

マネジメントラダーについては、マネジメントの自己の課題に気づいてもらうために、自己評価のみを開始した。マネジメントラダーⅠを副看護師長、レベルⅡを看護師長、レベルⅢを副看護部長として行った。

看護師長からは、暫定レベルの取扱いやマネジメントラダー認定についての意見がみられた。次年度日本看護協会公表のJNAラダーの変更が予定されているため、看護界の動向を踏まえ検討していく事とした。

②特定行為研修の推進に関すること

令和4年度は、前年度同様に2つの領域パッケージ（救急領域、術中麻酔管理領域）に各2名合計4名が研修を修了した。また認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野B課程の研修を修了した者が1名となった。更に認定看護師教育課程の特定行為研修のために、特定行為研修協力機関の手続きを行い、皮膚・排泄ケア分野の臨地実習を行った。

【当館の特定行為研修修了者数】

20名（令和5年3月末）

修了した特定行為区分と行為		研修期間	人数
当館研修	3区分7行為	第一期生 令和元年9月 ～ 令和2年5月	4名
		第二期生 令和2年6月 ～ 令和3年5月	4名

修了した特定行為区分 と行為					研修期間	人数	
当館 研 修	パ ッ ケ ー ジ	救急領域	5 区分 9 行為	第三期生	令和3年度	2名	
				第四期生	令和4年度	2名	
		術中麻酔 管理領域	6 区分 8 行為	第三期生	令和3年度	2名	
				第四期生	令和4年度	2名	
当館 以 外	認 定	21区分38行為 (診療看護師)			令和元年 〽 令和3年度		2名
					令和2年4月 〽 令和3年7月		1名
		クリティカル ケア分野	3 区分 11 行為		令和4年度		1名
		皮膚・排泄 ケア分野	2 区分 4 行為		令和4年度		1名

③人事評価について

看護部での目標管理を当館の人事評価制度へ移行し、行動評価及び目標達成度評価を行った。看護部の各種会議、委員会、リンクナース会、担当者会においては、目標管理制度を継続することにした。

部署においては、看護部目標→部署目標→個人目標、各種委員会等に関しても看護部目標との繋がりがわかりやすくなった。

人事評価制度では、部署の看護師長がスタッフ全員の面接を行う方針としていたが、看護師長の業務整理や中間管理職の管理的側面の向上のために、目標管理面談の方法も合わせ検討を行う。

（文責：宮地 由美子）

2) 新型コロナウイルス対策 看護部の取り組み

今年度は、新型コロナウイルス感染症の第7波・第8波の大きな波が押し寄せた年であった。前年度に引き続き、入院患者全員にPCRのスクリーニング検査を実施し、面会の中止や制限など佐賀県のフェーズに従い迅速に対応した。

この2年間で佐賀県民の約30%が新型コロナウイルスに罹患した。当館の職員も同比率で罹患し、さらに濃厚接触者として就業できなくなる状況が続く業務に支障が出た。コロナ病床の夜勤者を捻出するためSCU病床数を調整する、看護業務の均てん化を図るために部署間の応援態勢を整える等、日々人員・業務の調整・管理をおこなった。予定入院患者や救急患者の制限をすることなく診療・看護を継続できたことは、医療者としての誇

りと責任を備えた当館の職員の頑張りによるものであり、歴史ある好生館の強みを感じた出来事であった。

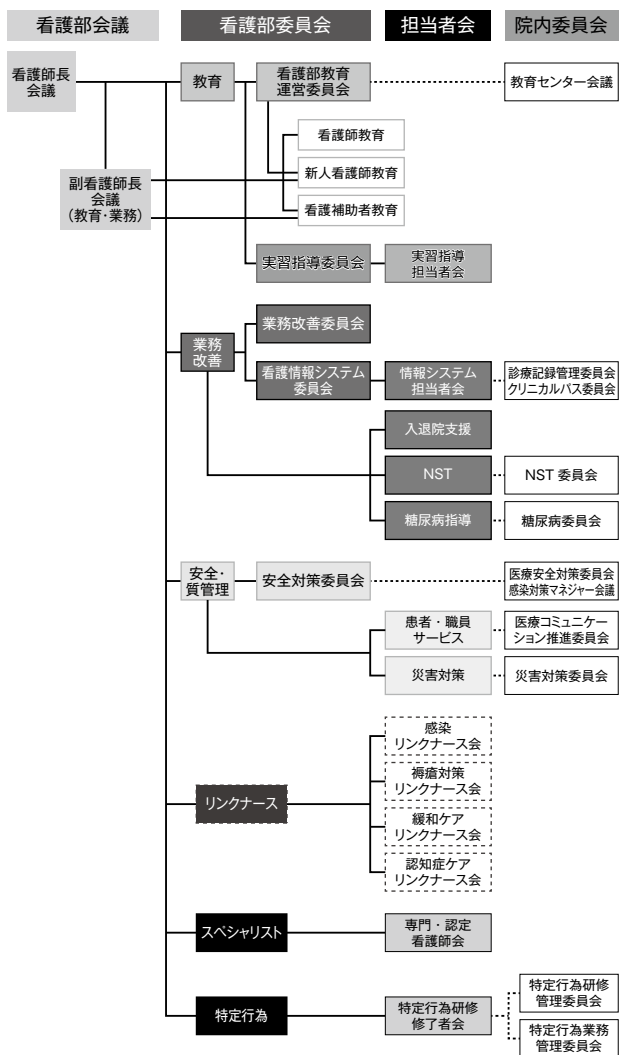
罹患者が減少し、次年度は新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行予定である。インフルエンザと同等の扱いが定着するまで、コロナ対策に取り組む。

(文責：松本 尚子)

2. 看護部会議・委員会・担当者会等

今年度は、看護部の会議や委員会、担当者会の役割と位置づけ、院内委員会との関連について整理し、「看護部会議・委員会・担当者会組織図」を作成し活動した。

佐賀県医療センター好生館
看護部会議・委員会・担当者会組織図



(文責：淵上 直子)

1) 業務担当副看護師長会議の取り組み

今年度の業務担当副看護師長会議は、前年度に引き続き看護補助者の教育・研修に力を入れた。

	研修項目	対象者	参加者
1	看護補助者の役割と業務内容	全看護補助者	76名
2	接遇研修	クラーク	28名
3	患者の移乗・移送	ナースエイド	26名
4	清潔ケア・体位変換	ナースエイド	11名

目標：1. 看護補助者へ研修を実施する

前年度作成した「看護補助者の役割と業務内容」の冊子を活用し研修を行った。今年度はトピックスとしてクラークを対象とした接遇研修を実施した。「外来・病棟クラークは病院の顔」をテーマとし、株式会社アテンド代表取締役社長の福成有美先生を講師に迎え、講義とグループディスカッションを行った。「患者さんやご家族の立場に立って自己を振り返る機会になった」など高評価であった。研修の最後に、今後気をつけたいことの宣言を記載してもらい、その内容を所属長と共有することが出来た。

清潔ケア・体位変換の研修はコロナが猛威を振っていた時期と重なり研修対象者を絞って実施した。

目標：2. 業務量調査の結果からタスクシフト出来る業務を整理する

業務量調査の結果、ナースエイドの主たる業務は患者の移送と環境整備・ベッドメイキングであった。環境整備・ベッドメイキングについては、確実にタスクシフトできるように次年度に研修を計画する。また、患者の清潔ケアをナースエイドが実施している部署は少なかったが、タスクシフトの観点から継続して研修を行うこととした。

目標：3. 看護職員へ看護補助者の役割理解のための研修を実施する

7月に全看護職員に対して、ナーシングスキルを活用し看護補助者の役割理解に関する研修を実施した。この研修は看護補助体制充実加算の要件の一つであり、9月より算定可能となった。中間管理者として病院経営に参画することができた。

(文責：松本 尚子)

2) 教育担当副看護師長会議の取り組み

今年度の新たな取り組みは、当会議のメンバーが中心となり新人看護職員に集合教育を開始した。研修23項目の内基礎看護技術20項目について、副看護師長が責任者となり、企画運営、評価まで全てを担当した。効果的な研修や現場のOJTに繋がるためにはどのようにしたらよいか考え、教育運営委員会のサポートを受け研修を実施した。研修を担当することで、新人看護職員教育の更なるレベルアップが期待出来るものとなった。更に教育に関する4つの取り組みをした。

①看護手順については、19手技の手順を追加・修正し、手順を更新した。②看護問題に関連した看護計画の整理は、3つの看護計画を見直し今回で一旦終了とした。③静脈注射マニュアルの改訂については、項目の見直しを行い次年度改定することにした。④新人の基礎看護技術評価、上記の研修20項目の総合評価をし、次年度の新人看護職教育の集合計画を立案した。

(文責：宮地 由美子)

3) 看護部教育運営委員会

目標：1. キャリアラダーに基づいた看護部研修の企画・運営・評価の実施
2. ナースナビを活用したキャリアラダーの運営管理及び認定の実施

今年度の教育計画は、ラダーレベルに沿って67項目の研修を実施した。看護職個々が自律して研修に臨み、看護職、看護補助者延べ2,515人が受講した。今回からは、教育担当副看護師長が新人看護職員研修担当者となり、よりOJTに繋がる研修企画・運営ができた。また、新たに「特定行為共通科目研修」、「臨床実践向上研修」「ファーストレベル修了者実践報告会」「目標管理研修」を開催した。

ラダーに関しては、導入2年目を迎えレベルⅠ・Ⅱ・Ⅲの認定審査を行い計105名が認定された。

*令和4年度看護職員研修実績(資料1)

(文責：野中 貴子)

4) 実習指導委員会

目標：各学校の実習目的・目標及び教育内容を理解し、実習の振り返りを踏まえ次の実習に繋げる

看護学生が実習目標を達成でき、生き活きと実習ができるよう以下の2点について取り組んだ。

①効果的な実習環境の整備として、現場の意見や問題を抽出し、二つの問題解決に取り組んだ。一つ目は、学生の記録の確認や評価などが時間外業務となっていた。学校側と調整し、記録物の確認や評価を簡素化することにした。二つ目は、学生の受持ち選定方法が各学校で違いがあり、現場で混乱が生じていた。そのため、受持ち患者選定表を統一し、学生が自ら受持ち患者を選定できるように変更した。

②効率のよい臨地実習指導会議として、委員会が中心となり各学校と現場の意見を取り入れ、各学校との調整を済ませたうえで会議を開催した。この結果、会議時間の短縮に繋がり、各学校と実習指導担当者とのコミュニケーションも図れるようになった。

(文責：江副 直子)

5) 業務改善委員会

目標：1. 他職種と協働し、持参薬管理方法を検討、実施する
2. 業務量調査結果を部署の業務改善で活用できる提案ができる

今年度は、持参薬にかかる時間外について問題提起され、持参薬WGと協働して業務改善を行った。医療安全上、経営面も含めて持参薬廃止まで至らなかったが、2週間分使用することで、大半の部署は「整理する時間」「管理する薬剤量」の改善があった。

昨年度実施した看護業務調査の結果からデータサンプルを各部署配布後に活用促進のため、実践している部署の事例を紹介した。委員メンバーの部署から取り組みを看護師長会議にて紹介した。部署においてもICT活用でバイタル測定、ナースエイドへのタスクシフト、業務時間の見直しなど、どの部署も記録の改善、看護補助者へ委譲できる業務を考え業務改善を行うことができた。

(文責：伊東 美知代)

6) 看護情報システム委員会

目標：1. 看護記録監査体制の構築
2. 看護サマリーと看護情報提供書の整備
3. 標準看護計画申請の承認と登録

目標1では、看護記録と看護の質向上を目指し看護記録監査体制の構築を行った。看護記録監査を「形式監査」と「質監査」に分け、今年度は「形式監査」の体制を構築した。監査項目は、

看護の証明において必要な内容とし、監査結果を各部署にフィードバックした。また、監査者は自己の看護や記録を振り返る機会となった。

目標2では、看護記録の効率化を目指し、検討した。看護サマリー・看護情報提供書・看護記録形式監査を変更し、看護記録マニュアルを改訂した。

目標3では、新たに2つの標準看護計画の承認と登録を行った。

(文責：下村 聡美)

7) 安全対策委員会

ダブルチェックの有効性を再考し、一人双方向型ダブルチェックを導入した。マニュアルの周知および6Rの徹底と指差呼称による精度を高めるため、全看護師・助産師を対象に研修を行い493名が参加した。研修後のアンケートでは323件の回答を得(回答率65.5%)、98.1%が理解できたと回答し、約半数が「常に実施している」と回答した。その他「確認の精度が上がった」「作業を中断されることがない」という前向きな回答も多く得られた。後の評価では6Rの確認不足によるインシデント発生や呼称をしていないという現状があるため、部署でのOJTの継続が課題である。再度マニュアルの周知と6Rの徹底のためポスターを掲示し、ラウンドしながら実施率の低い部署への指導を行った。

また、身体拘束の開始および中止基準に関する提言として「身体拘束の開始基準」および「チューブ挿入時における身体拘束開始および解除の判断フロー」を作成した。

(文責：寺田 恭巳子)

8) 感染リンクナース会

令和4年度の感染リンクナース会は、「根拠に基づいたカテーテル管理を実施することができる」を目標とし10回開催した。

カテーテル管理は、薬剤耐性菌対策(特にESBL産生グラム陰性桿菌)の院内発生低減に向けて、また、尿路感染症の発生報告もあるため、主に膀胱留置カテーテルの管理について取り組んだ。講義とグループワーク形式で行い、カテーテルの挿入目的が不明、必要性が評価されていない現状を踏まえて「膀胱留置カテーテル抜去に関するフローチャート」を作成した。次年度以降、フローチャートを活用し尿路感染防止に向け継続的に取り組むこととした。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症患者対応の応援スタッフとしても感染症病床で活動を行った。感染対策の知識を身につけ、手指衛生や個人防護具の着脱など正しく実践することで新型コロナウイルス感染症患者の受け入れに貢献した。

(文責：三好 恵美子)

9) 褥瘡対策リンクナース会

令和4年度の目標は、褥瘡発生率自重0.2%、スキン・テープテア0.35%、MDRPU0.4%であった。リンクナース会としては、部署での褥瘡対策の問題点や課題・対策を共有するため、発生症例の振り返りを、プレゼンテーション形式でリンクナースが発表した。対応に難渋した所や工夫した点を共有し、経験豊富なWOCNよりそれぞれの症例についてアドバイスを受けた。患者を大切にすることを看護の基本を改めて確認し、看護師の役割をスキんケアの視点で確認できた。

また、褥瘡ケアの実効性を高めるべく、WOCNや理学療法士より講義と演習を受けた。理学療法士による「褥瘡予防のポジショニング」では、器具を用いた体験により臨床でのアセスメントに役立つ知識と実践のための技術が得られた。

令和4年度の褥瘡発生率は、自重0.40%、スキン・テープテア0.51%、MDRPU0.65%となった。次年度に向けて、部署の課題と決意をリンクナースより表明して、継続的に取り組んでいくことを確認してまとめとした。

(文責：有馬 浩史)

10) 緩和ケアリンクナース会

目標：緩和ケアに必要な知識を習得し、自部署で活用することができる

前年度より「苦痛のスクリーニング運用」に関する学習会、実地研修を行った。「苦痛のスクリーニング運用」に関しては、入院患者の苦痛のスクリーニングのフロー図の作成や「苦痛のスクリーニング」のICT化に向けて作業を行い、次年度より実施できるまでの準備を整えることができた。今後も引き続き、緩和認定看護師と共にリンクナースが活動できるよう環境を整えていく。

実地研修では、リンクナース1年目の4名が参加できた。「基本的緩和ケアとは何か」を学び、自己のかかわりを振り返ることができた。これにより患者の苦痛を早期に理解し、専門的看護

に結びつけることの重要性や認定看護師の役割の理解につなげることができた。

(文責：福井 直子)

11) 認知症ケアリンクナース会

目標：認知症ケアリンクナースが、自部署における認知症ケアの向上に関して、文献検索を含めた取り組みができる

知識・技術を得るための研修として、認知症ケア・ユマニチュード的関わりのロールプレイ、せん妄患者への関わり方、精神薬の作用・副作用などの項目で実施した。

今年度の目標に関しては、認知症ケアに関する自部署の問題を抽出した際に、文献検索を実施し、先行文献でどのような取り組みがなされているのかを確認し参考にした。また、リンクナース2年目以上のスタッフは文献紹介を実施した。

年度末の各部署での取り組み発表では、先行文献もよく活用されており、ユマニチュード的関わりの実践的取り組みや、せん妄予防対策として睡眠に関するケアや日中の覚醒を促すケアなどの発表があった。

(文責：花房 喜代治)

12) 専門・認定看護師会

令和4年度は、前年度に引き続き「受持ち看護師との協働」に力を入れた。専門・認定看護師のそれぞれが、日々の活動に於いて、指導力を強化し受持ち看護師への支援充実を図った。また、「使ってもらってなんぼ」を合い言葉に、現場からの相談に迅速に対応する姿勢で行動した。

3月の看護実践報告会では、「看護実践の強い味方！～受持ち看護師とリソースナースの協働～」をテーマに4症例を報告するなど看護ケアの質向上に寄与したと考える。

(文責：淵上 直子)

13) 特定行為研修修了者会及び修了者の活動に関する事

(1) 特定行為研修修了者会

①特定行為の記録の整備及び関連した手順書の見直し

②院内への特定行為研修修了者の活動の周知
2つの目標にて活動をした。①では、活動に当たり、長年の課題であった2つの取り組みを行った。「特定行為の医師の指示出し」

では、電子カルテ指示コメントから指示出しが出来るように記録を整備した。また「特定行為の看護記録の標準化」では、手順書に沿った記録が出来るように、特定行為テンプレートを作成し、看護記録の効率化を図った。②では、学会及び講演会活動では、「院外」7演題、「院内」5演題の発表をし、当館の特定行為研修修了者が認知される機会となった。

(2) 特定行為研修修了者の活動

令和4年度には修了者15名となった。特定行為研修修了者のスキルを活かした2つの活動を開始した。①術中麻酔管理領域修了者が行う麻酔管理補助業務については、修了者2名が2週間毎の活動出来る様にシステムを整備し、麻酔管理料Ⅱ算定に貢献した。また救急外来では、医師の事前指示や事前に取り決めたプロトコルである「救急外来における検査の実施に関するプロトコル」の運用を開始した。2つの取り組みは、患者へのタイムリーな医療の提供、医師のタスク・シフトにも繋がる活動となった。

(文責：宮地 由美子)

14) 実習指導担当者会

2022年度、実習指導委員会が新設された。実習指導担当者会では、実習指導委員会の下に部署の実習環境を整備するため、「看護部 臨地実習指導 実習オリエンテーション（共通編）」を活用し実施することを目標に掲げ、担当者会を年4回開催し活動した。実習指導者会議で各学校と情報共有や意見交換を行い、看護部 臨地実習指導 実習オリエンテーション（共通編）を見直した。看護部の共通項目と部署の特性を踏まえた項目に分けて内容を整理し、学生が実習中にいつでも確認できるようにした。担当者会活動の振り返りアンケートでは、「担当者以外でも同じ内容のオリエンテーションが実施できる」など、担当者以外の実習指導者との連携がとれて、実習指導の困りごとの解決の1つとなった。また、各学校からも実習オリエンテーションについて、よい評価を得た。今後も臨地実習指導の充実に向けて取り組みを継続していく。

(文責：金原 直美)

15) 入退院支援担当者会

目標：患者のニーズを把握し、退院支援ナースとしての役割が実践できる
～MSWとの協働～

担当者会は、令和4年5月から令和5年2月までの毎月1回、計9回行った。これまで、退院支援ナースの役割が十分に発揮できていなかった為、役割を明確にし、会を通して知識・技術・態度の習得を行った。

退院支援ナースが活動を行うにあたり、各部署PHSの番号を固定化し、ストラップを目立つホットピンクにした。今年度はMSW数の減少もあり、MSWと協働した退院支援を実施した。退院支援ナースが転退院の窓口となり、多職種と連携し患者・家族の希望にそった退院支援を行った。令和4年度の入退院支援加算1算定率は、前年度を上回り96.1%だった。

退院支援ナースの活動報告会では18名中16名が参加し2名が欠席だった。発表内容は在宅療養に向けた支援が8名、意志決定支援5名、多職種連携・チームアプローチ3名で、退院支援ナースとして患者・家族のニーズにそった退院支援が実践できていた。

(文責：池田 恵子)

16) 患者・職員サービス担当者会

目標：あなたは言えますか？接遇の5原則ブラッシュアップ！

ワンランク上の接遇を目指して

接遇の5原則は挨拶・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度であるということが、自然と言葉にできるように活動した。毎月接遇5原則に関する川柳やキャッチコピーを募集して、優秀作品をポスター掲示した。

総数271の川柳の応募があり、接遇について考える機会となった。また接遇に関するロールプレイを行い、相手の気持ちを配慮した言葉遣いやコミュニケーションについて学んだ。

患者サービス向上のために、入院患者満足度調査の回収率を上げる取り組みを行い、目標の35%以上を達成した。

(文責：石橋 はるみ)

3. その他

1) 院外研修

新型コロナウイルス感染症の流行下であったが、今年度から対面での研修が増え、例年と同程度の合計100の研修に述べ230名が参加した。

<長期研修>

研修項目	期間	人数
佐賀県保健師助産師看護師実習指導者講習会	7月～10月 (186時間)	3名
福岡県専任教員養成講習会	4月～12月	1名

<認定看護管理者教育課程>

項目	期間	人数
サードレベル 熊本県立保健科学大学	7月～9月 (195時間)	1名
セカンドレベル 佐賀県看護協会	7月～2月 (186時間)	1名
ファーストレベル 佐賀県看護協会	5月～12月 (114時間)	7名

<認定看護師教育課程>

項目	期間	人数
令和4年度精神科認定看護師教育課程(精神科看護協会主催)	4月～1月	1名
2022年度静岡がんセンター認定看護師教育課程(皮膚・排泄ケア分野)	4月～3月	1名
北里大学看護キャリア開発・研究センター認定看護師教育課程(感染管理分野)	7月～3月	1名

2) 臨地実習受け入れに関すること

今年度から、看護部内に実習指導委員会が設置され、学生の実習について現場の声を聞きながら、効果的な実習環境を整備した。

また、現場の新型コロナウイルス感染拡大やクラスター発生、学生の感染や濃厚接触者となったことで、実習場所調整や学生個々の実習を受け入れるなど状況に合わせた対応に苦慮した。

＜看護学生の臨地実習受け入れ 7施設＞

	学校名	学年	人数
1	佐賀県医療センター好生館看護学院		
	看護学科	1 年生	40名
		2 年生	42名
		3 年生	39名
	助産学科		4 名
2	佐賀市医師会立看護専門学校		
	専門課程	2 ～ 3 年生	33名
	看護高等課程	1 年生	80名
3	佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校		
	衛生看護専攻科	2 年生	29名
			75名
4	古賀国際看護学院	3 年生	4 名
5	医療福祉専門学校 緑生館総合看護学科	4 年生	3 名
6	佐賀大学医学部		
	看護学科	4 年生	3 名
	看護学科助産コース	4 年生	1 名
7	西九州大学		
	看護学部看護科	3 年生	16名
		4 年生	8 名
合 計			377名

＜認定看護師及び認定看護管理者教育課程の
実習受け入れ＞

	施設名	人数
1	久留米大学認定看護師教育課程 緩和ケア分野	1名
2※	2022年度静岡がんセンター認定看護師 教育課程(皮膚・排泄ケア分野) 特定行為自施設実習	1名
3	令和4年度独立行政法人国立病院 機構認定看護管理者教育課程 サードレベル	1名
4	2022年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル研修(佐賀県看護協会)	1名

※2では、同施設との特定行為研修協力施設の申請を行い、実習を受け入れた。

(文責：宮地 由美子)

看護部教育

- 目的：看護部理念に基づき時代の変化に対応し、専門職として自律した看護職を育成する
- 目標：1. 根拠に基づいた看護実践ができる 看護実践能力 理論と実践の統合 最新の知識と技術
 2. 医療チームの一員として組織的役割を遂行できるように、問題解決能力、判断力を身につける
 3. 看護専門職として成長していくため、主体的に継続看護ができる

令和4年度 看護職員研修計画 令和4年度テーマ：専門職として考える力を伸ばそう！

実践能力とキャリア開発に必要な力	No	研修項目	レベル	主な内容	研修方法	日時	受講者	講師	場所
看護の核として必要な力	16	基礎看護技術I 看護技術(1)	I	・日常生活に必要な援助「療養環境の整備」「食事」「移動」「口腔ケア」 ・診療・処置に必要な看護技術「静脈注射」「血糖測定」など	講義 演習	4月～6月 毎週火曜日 研修要項参照 他7月・11月・2月	(新規採用者 24名) 研修 NO.1～16 新人看護職 延べ378	看護師長 副看護師長 認定看護師 実地指導者 臨床工学技士 教育運営委員	研修室1AB 研修室2
	17	基礎看護技術II 口腔ケア	II	・「口腔ケアが患者を救う」看護師が行う嚥下機能評価 ・摂食・嚥下障害患者の口腔ケア・食事介助	講義 演習	6/28(火) 8:30～12:30	19	摂食・嚥下障害看護 認定看護師 北原真由子	
	18	看護過程 1-(1)	I	・患者を正しく看よう (フィジカルイグザミネーションとアセスメント)	講義 演習	4/22(金) 10:00～13:00	24	救急看護認定看護師 田中由美	多目的 ホール
	19	看護過程 1-(2)	I	・データ収集の段階 クリティカルシンキング		5/13(金) 10:00～13:00	24	看護師長 池田恵子	1 研 A 修 B 室
	20	看護過程 1-(3)	I	・模擬事例から看護を考える		7/12(火) 10:00～13:00	24	看護師長 池田恵子	
	21	看護過程 2-(1)	I	・OJTにおけるフィジカルイグザミネーションとアセスメント	演習	9/1～9/16 勤務時間内	37	副看護師長 看護師長	各部署
	22	看護過程 2-(2)	I	・「受持ち患者の事例展開」	症例 発表	10/28(金) 9:00～17:15	34		研修室 1AB
	23	看護過程 3-(1)	II	・受持ち患者の看護を看護理論を用いて再確認できる (講義・グループワーク)	講義	11/8(火) 9:00～16:00	29	佐賀大学 古賀明美 教授	多目的 ホール
	24	看護過程 3-(2)	II	・看護理論の本質を読み取り、受持ち患者の看護実践と看護理論を照らし合わせることができる(グループ 毎で発表)	グループ毎 症例発表	2023/1/10(火) 9:00～12:00中止 3/13(月) 17:30～18:30	9 (発表者)		
	25	看護過程4	II	・「理論を用いた受持ち患者の事例展開」	症例 発表	9/30(金) 9:00～17:15	22		
	26	認知症 ケア	I	・認知症とせん妄の違いわかりますか? ・患者の状態を理解して患者に対応しよう!	講義 演習	10/4(火) 10:00～13:00	24	認知症看護 認定看護師 北島佳奈	研修室 1AB
	27	退院支援	III	・訪問看護ステーション研修	実習	9月～10月 中旬 8:30～17:15	11	佐賀県看護協会 訪問看護 ステーション	佐賀県看護協会訪問看護ステーション
	28	看護倫理 1	I	・日常的な倫理的問題 ・倫理的側面からみる看護師の責務と役割	講義 演習	9/6(火) 10:00～13:00	23	看護師長 古川佳子	研修室1AB
	29	看護倫理 2	II	・臨床の場面での出来事 ・基盤となる考え方4原則について理解できる	講義 演習	9/13(火) 10:00～13:00	21	看護師長 井上真弓	
	30	看護倫理 3	III	・倫理的問題を解決するために必要な基礎知識 ・基盤となる4原則について考える 倫理カンファレンス 事例検討	講義 演習	9/20(火) 10:00～13:00	28	看護師長 有馬浩史	
	31	静脈注射に関する知識の再確認	I	・がん薬物療法や造影剤に関する静脈留置針挿入 ・皮下植え込み型ポート穿刺、抜去	オンライン 講義	10/3～ 2023/1/16 勤務時間	46	Nursing Skills 講師	
	32	がん薬物療法看護	II III	・がん薬物療法の薬剤の取扱い方(暴露予防と方法)抗がん薬の正確で安全、安楽な与薬と管理 代表的な副作用と対処法及び予防について	講義 演習	10/11(火) 10:00～12:00	23	がん化学療法看護 認定看護師 岸副登記子	研修室1AB
	33	輸血療法看護		・血液製剤の管理、輸血の実際に必要な基礎知識 ・輸血の副作用と対処法について 安全、安楽な輸血と管理	講義 演習	10/18(火) 10:00～11:00	32	看護師長 福井直子	
	34	放射線看護		・造影剤の安全、安楽な与薬と管理 ・副作用と対処法及び予防について	講義 演習	10/25(火) 10:00～12:00	27	がん放射線療法看護 認定看護師 白谷みのり	
	35	口腔ケア アドバンス		・摂食・嚥下に関する知識の確認 ・摂食・嚥下障害看護認定看護師の院内活動に随行し、実践	講義 演習	7月～12月 研修要項参照	6	摂食・嚥下障害看護 認定看護師 北原真由子	
	64	臨床実践 向上研修		・最新の知見を活かす 看護ケアシリーズI ・周手術期看護 (1) 効果的な術後の悪心・嘔吐への対応 (2) 疼痛管理	講義	(1)12/20(火) (2)3/7(火) 17:30～18:30	(1)38 (2)60	麻酔科三浦 森永医師 荒木将晴看護師	

実践能力とキャリア開発に必要な能力	No	研修項目	研修レベル	主な内容	研修方法	日 時	受講者	講 師	場所
看護の核として必要な能力	36	重症度・医療・看護必要度研修	全職員	・重症度・医療・看護必要度研修	オンライン講義	10/26~2023/1/16 (新人) 10/26~12/19 (他)	501	Nursing Skills 講師	
	37	特定行為研修	Ⅳ以上	・看護師の特定行為研修	演習実習 シミュレーション		4		シミュレーション室
	38	特定行為修了者研修		・特定行為研修修了者トレーニング	実地研修		4		
	39	特定行為看護師実践報告会		・特定行為研修受講者による看護実践報告会	実践報告会	12/7(水) 17:30~19:00	5 (発表者)		多目的ホール
	65	特定行為共通科目研修		・特定行為研修「共通科目」の学習を行い、臨床推論力・病態判断力向上のために知識を習得する	オンライン講義	5月末~3月31日	11	全日病 S-QUE e-learning	
組織的役割遂行能力	40	ストレスマネジメント1	Ⅰ	・「上手な叱られ方」 Nursing Skills	オンライン演習	6/21(火) 15:00~17:00	24	リエゾン精神看護認定看護師 花房喜代治	研修室1AB
	41	ストレスマネジメント2	Ⅰ	・野外活動「自然を感じてリフレッシュ」	屋外活動	9/17(土) 8:30~17:15	22	臨床心理士 松尾真樹	北山少年自然の家
	42	プリセプター1	Ⅱ	・対人関係に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ ・人の考え方の特徴、今どきの新人看護師の特徴を学ぶ	講義演習	6/3(金) 14:00~17:00	21	看護部長 島本直子	研修室1AB
	43	プリセプター2	Ⅱ	・リフレクション支援「アサーティブ コミュニケーション」Nursing Skills動画	オンライン演習	9/9(金) 10:00~12:00	18	看護部長 石橋はるみ	
	44	プリセプター3	Ⅱ	・新人看護師教育について プリセプターの役割	講義演習	2023/3/7-8 10:00~12:00	35	看護部長 河内志津子	
	45	実地指導者コーチング	Ⅱ以上	・コーチングの基本スキル「聴く」「質問する」「承認する」	講義演習	11/1(火) 13:00~17:00	30	AEメディカル 野津浩嗣氏	多目的ホール ABC
	46	実地指導者1	Ⅱ	・教え方のスキル（新人看護職研修の目的・目標、体験学習の理解）	講義演習	5/20(金) 10:00~13:00	19	看護部長 金原直美	
	47	実地指導者2	Ⅲ	・教え方のスキル（OJTにおける指導法、リフレクション・フィードバック）	講義演習	6/17(金) 10:00~13:00	20	看護部長 伊東美知代	
	48	臨地実習指導者	Ⅲ	・後輩を支援しよう！臨地実習指導者向け研修	講義演習	7/8(金) 10:00~12:00	18	看護部長 江副直子	研修室1AB
	49	管理者研修	ⅣⅤ	・実践で活かせる看護管理（詳細は別途案内）	講義	6月~3月 第1金曜日/毎月 15:00~16:00	延べ523	副看護部長	多目的ホール
	50	管理者研修コーチング	ⅣⅤ	・管理者に求められるコーチングスキル	講義演習	11/29(火) 13:00~17:00	30	AEメディカル 野津浩嗣氏	
	66	目標管理研修	ⅣⅤ	・目標管理制度の目的を理解する ・看護管理者に求められる面接に必要なスキルを学ぶ	講義	2023/ 2/4,25(土) 13:00~17:00	71	AEメディカル 野津浩嗣氏	
	51	スペシャリスト対象研修	Ⅳ	・看護実践と指導に求められるマネジメント	講義	2023/ 2/1(水)		中止	
	52	専門・認定看護師実践報告会	Ⅳ	・専門・認定看護師による看護実践報告会	実践報告会	2023/ 3/1(水) 17:30~19:00	6 (発表者)	専門・認定看護師	
	53	リーダー研修	Ⅲ	・リーダーとして求められる役割 ・リーダーシップとは何か	講義演習	7/29(金) 10:00~13:00	26	看護部長 野中貴子	研修室1AB
	54	リーダーシップ・マネジメント研修	Ⅳ	・部署の課題解決について	講義演習	9/27(火) 10:00~13:00	16	株式会社アテンド 福成有美氏	多目的ホール
	55	リーダーシップ・マネジメント実践報告会	Ⅳ	・リーダーシップ・マネジメント研修受講者による実践報告会	実践報告会	2023/ 2/16(木) 14:00~16:00	16		
	56	看護実践報告会	全	・部署での一年間の取り組みについて看護実践報告会	実践報告会	2023/ 3/16(木) 17:30~19:00	5 (発表者)		
	67	ファーストレベル修了者実践報告会	ファーストレベル修了者	・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」の学びを現場で活かす ・取り組み内容をまとめることで、自己の実践を振り返り次の実践に繋げる	実践報告会	12/5(月) 14:00~16:00	11 (発表者)		
自己教育研究能力	57	看護研究基礎編①	Ⅲ	・「看護研究とは 研究テーマの見つけ方」 ・「研究方法—質的研究・量的研究」Nursing Skills動画	オンライン演習	7/1(金) 9:00~12:00	7	Nursing Skills 講師	研修室1AB
	58	看護研究基礎編②	Ⅲ	・「研究計画—倫理的配慮と研究計画書」 ・「統計とデータ分析」「論文執筆と研究発表」Nursing Skills動画	オンライン演習	7/15(金) 9:00~12:00	6	Nursing Skills 講師	
	59	看護研究実践編	Ⅲ以上	・研究に取り組む能力支援に関連した研修（佐賀県看護協会）	院外研修	5回 (4月・9月・10月)	5	看護協会	看護協会

*看護補助者研修 看護補助業務1：7/21、看護補助業務2：9/22、看護補助業務3：10/20、看護補助業務4：1/19

受講者 延べ122名

薬剤部

1 全体

病棟業務の充実を目指してCITA Clinical Finder（以下、CITA）を活用し術前中止薬の再開忘れを防止する取組を開始した。また、入退院支援センターや薬剤師外来で保険薬局との連携強化を行い患者が安全に服薬できるよう取り組んだ一年だった。

2 スタッフ

2022年度は薬剤師31名・助手6名の体制で活動したが育休・時短勤務が多く実質28名の薬剤師で業務をおこなった。そのため、次年度は薬剤師2名と助手1名の増員を予定している。

3 教育・研修

臨床技能、知識の習得を目的に症例検討会や最新の薬剤のエビデンスを学ぶため薬剤部勉強会を月1回行った。認定、専門薬剤師のための自己研鑽も活発に行われており以下の資格取得者が活動している。更に、薬学生の実務実習受入施設やがん関連の研修施設の認定も取得し学生や薬剤師の教育にも取り組んでいる。

資 格	人数
薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	4名
日本病院薬剤師会指導薬剤師	1名
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	3名
日本医療薬学会がん専門薬剤師	3名
日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士	2名
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士	6名
日本薬剤師研修センター小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	1名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	3名
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	2名
日本循環器学会心不全療養指導士	1名
日本災害医学会インストラクター	1名
日本臨床試験学会GCPパスポート	1名
日本臨床試験学会GCPエキスパート	1名

受入施設

薬学生長期実務実習受入施設
日病薬「がん薬物療法認定薬剤師」研修施設
日本医療薬学会「がん専門薬剤師」研修施設

また、地域連携事業の一環として、地域の保険薬局、病院薬剤師を対象に好生館薬剤部主催の佐賀好生館薬剤師セミナーを実施し66名の参加を得た。薬学部学生の長期実務実習は8名/年受け入れた。

4 業務に関すること

（抗がん剤・レジメン）

薬剤部では患者が安全に化学療法を実施できるようレジメンの作成管理を行いホームページで保険薬局と情報共有を行っている。2022年度は新たに52件のレジメン登録を行い、全593件を管理している。がん無菌調製件数は2022年度が9,709件と増加している。また、休日の抗がん剤無菌調製は薬剤部ですべて実施している。2018年度から外来化学療法室にて薬剤師外来を開始し2022年度は1,707件実施し前年度より8%増加した。2020年度には連携充実加算を取得し、2022年度は803件実施し前年度より21%増加した。更に2021年度から医師の業務軽減を見据えて薬剤師によるPBPMを3つ運用し2022年度は137件を実施した。今後も外来患者が安心して治療を受けられるよう保険薬局薬剤師と情報共有を行っていく。

（入退院支援センターでの活動）

2022年度の面談件数は6,332件で前年度より26%増加し順調に推移している。手術等で休薬が必要な薬品を薬剤師が検知する割合は2022年度が32.2%で前年度より5%増加しており、患者が安全に服薬出来るようサポートしている。今後も薬剤部の重点業務として取り組んでいく。

（採用薬品）

医薬品購入額は高額な抗がん剤等の使用増加により年々上昇傾向にあるが、積極的な価格交渉を進めると共にバイオシミラーを含む後発医薬品の採用を積極的に行っている。2022年度の採用品目数は1,039品目で後発品目数は376品目で品目ベース36.2%、金額ベース76.1%、数量ベース93.5%を占めている。

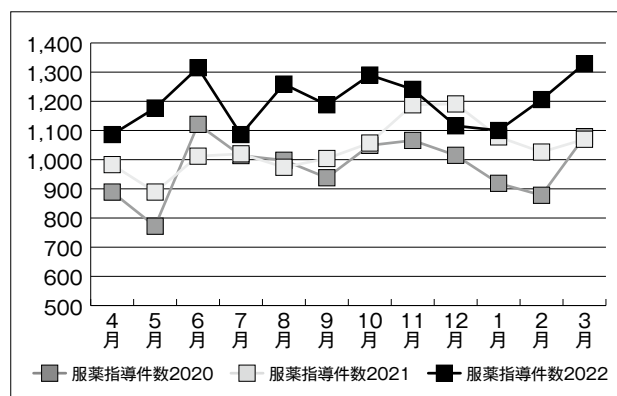
（病棟業務、チーム医療）

2015年度より全病棟に専任の薬剤師を配置し、全病棟で入院患者に対する薬物療法の有効性・安全性の向上を目指して取り組んでいる。更に、同年7

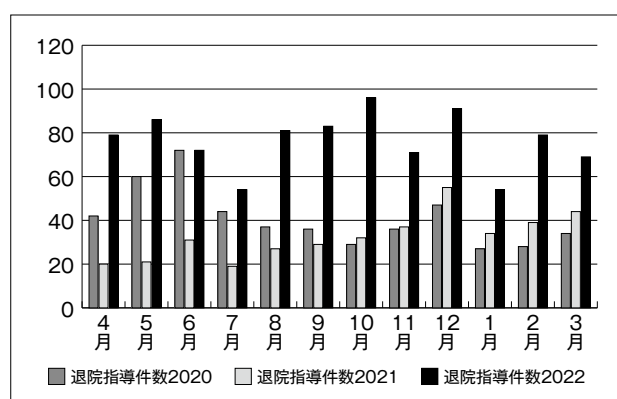
月からは病棟薬剤業務実施加算、2016年6月からは病棟業務実施加算2の算定を開始した。各診療科の回診・カンファレンスにも積極的に参加し、患者情報の収集や薬物療法の提案を行っている。2022年度の薬剤管理指導算定件数は14,395件で昨年度より13%増加している。更に患者の入院中の情報を保険薬局薬剤師と共有するために退院時指導を推進した。その結果2022年度は917件と昨年度の58%増となった。

チーム医療においても糖尿病、緩和ケア、感染症、NST、外来化学療法、褥瘡、手術部、入退院支援センターのチームメンバーとして継続的な活動を行った。2017年度の抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の設置に伴い、病棟担当の薬剤師がASTの一員として、院内の抗菌薬適正使用に努めている。

服薬指導件数



退院時指導件数



(文責：草葉 一友)

医療安全管理部

1 医療安全管理部の構成

1	部長・医療安全管理責任者	内藤 光三 (副館長)
2	副部長・医療安全管理者	武田 雄二 (呼吸器外科部長)
3	医薬品安全管理責任者	草葉 一友 (薬剤部長)
4	医療機器安全管理責任者	馬場 英明 (MEセンター技士長)
5	医療放射線安全管理責任者(代理)	濱田 洋 (放射線部技士長)
6	医療安全担当副看護部長	松本 尚子 (副看護部長)
7	医療安全管理者、GRM(専従)	山口 雅子 (看護師長)
8	医療安全管理者(専従)	倉谷 実希 (副看護師長)
9	集中ケア認定看護師(専従)	梶原 早苗 (副看護師長)
10	医療安全担当事務(専従)	徳島 香奈 (総務課副主査)

2 令和4年度の主な活動報告

(1) インシデント・アクシデント報告の集計・分析・活用

令和4年度のインシデント・アクシデント報告総数は2,675件であった。例年と同様「薬剤に関する項目」が最も多く、次いで「検査に関する項目」「ドレーン・チューブに関する項目」「転倒・転落」が上位を占めていた(図1)。クオリティインジケータである転倒・転落発生率は2.3%、転倒・転落による損傷発生率は0.44%であった。医師からのインシデント・アクシデント報告数は年々増加し、今年度は658件で全体の24.6%を占めた(図2)。全報告数の過去10年間の変化を見ると、2019年から増加傾向となり今年度は2012年の2倍となった(図3)。インシデント・アクシデント報告からの改善、対策として一人双方向型ダブルチェックの啓蒙、手術室以外における侵襲的な治療・検査・処置前のタイムアウトの実施、食物禁忌情報及び救急カートの見直し、ペースメーカー・ICD植込患者の対応、眼科手術入院時のクリニカルパスの変更、フェインジェクト静注の血管外漏出についての注意喚起等に取り組んだ。

図1 令和4年度 インシデント・アクシデント報告内容別割合

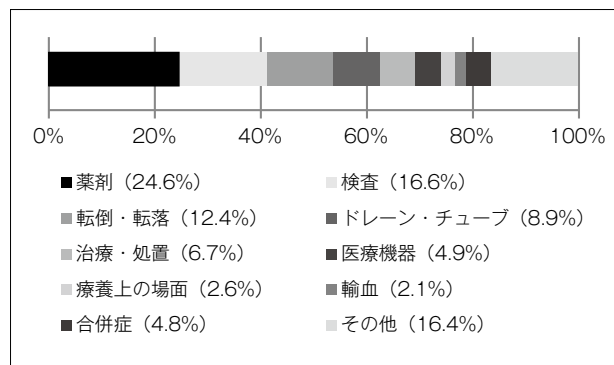


図2 令和4年度 インシデント・アクシデント報告職種別割合

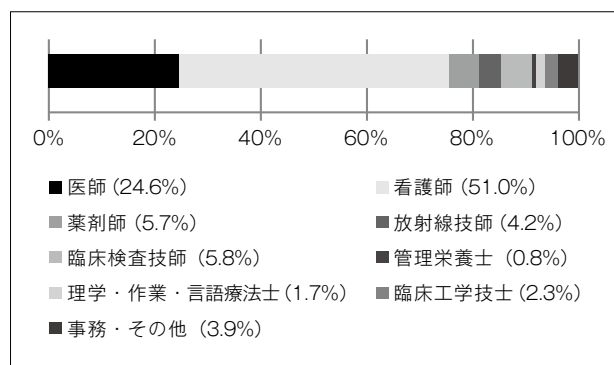
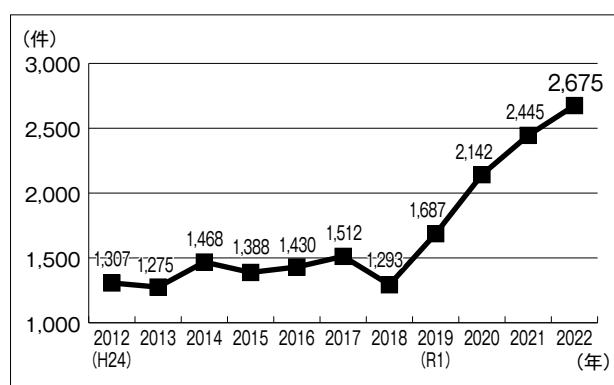


図3 インシデント・アクシデント報告数推移



(2) 医療安全管理部会議(1回/週)

・提出されたインシデント・アクシデント報告、合併症報告、死亡患者の報告、医療事故報告についての分析、予防策、改善策の提案・推進を協議する。

(3) 医療安全管理委員会(1回/月)

館内の医療安全管理に関する重要事項等について審議し方針を決定する機関である。

下部組織として医療安全対策委員会、クオリティマネジメント委員会を設置している。

・医療安全対策委員会

医療事故の防止対策及び安全な医療の提供体制を確立するためにインシデント・アクシデント報告、医療事故報告の支援、集積、分析等を行う。

・クオリティマネジメント委員会

「医療行為に伴う合併症、有害事象、死亡など」を集積・分析する事により好生館における医療の質の向上を目指す。

各委員会は毎月開催し、医療安全管理委員会に報告し審議・決議を行う。

- (4) セーフティマネージャー連絡会議（4回／年）
セーフティマネージャー相互の連携及び医療安全管理部との連携を図る
- (5) 医療安全管理部の館内ラウンド（週1回）
- (6) 医療安全ニュース発行（月1回発行）
- (7) リスクマネジメントマニュアルの改訂
- (8) 日本医療機能評価機構の「医療安全情報」や他施設で発生した医療事故情報、その他医療安全に関する話題をイントラネットにて全職員へ提供している。
- (9) 日本医療機能評価機構の医療事故情報収集事業への報告（3ヶ月毎）
- (10) RRT（院内迅速対応チーム）の24時間体制の構築、医療安全管理部へのRRT専従看護師の配置
- (11) 放射線診断レポートおよび病理診断レポート既読管理システムのモニタリング
- (12) 医療安全対策地域連携に関する評価の実施
加算1（相互評価）
日本赤十字社唐津赤十字病院
加算2 医療法人ひらまつ病院、医療法人静便
会白石共立病院、医療法人同愛会サン
テ溝上病院
- (13) 医療安全推進週間（11月）
- (14) 医療安全文化調査（日本医療機能評価機構 病院評価機能事業）への参加
- (15) 医療の質可視化プロジェクト（日本医療機能評価機構 医療の質向上のための体制整備事業）への参加
- (16) 好生館サンクスカードの運用
- (17) 医療事故調査制度の報告対象事例の院内調査と報告書作成

3 教育

(1) 医療安全研修会 3回／年

第1回医療安全研修会（第184回病院マネジメント推進会） 令和4年6月2日

- ・『麻薬の取り扱いについて～麻薬はどうして特別扱いなの？～』 薬剤部長 草葉 一友
- ・『医療機器の安全使用について』

臨床工学技士 平野徳章

第2回医療安全研修会（第188回病院マネジメント推進会） 令和4年11月10日

- ・『院内迅速対応チーム（RRT）実績と今後の展望』 集中ケア認定看護師 梶原早苗

第3回医療安全研修会（第190回病院マネジメント推進会） 令和5年1月5日

- ・『医療ガスの安全な取り扱いについて』

林酸素(株) 鶴田豪生

福岡酸素(株) 伊藤貴章

- ・『放射線の安全利用について』

診療放射線技師 江口寛晃

- ・『好生館における輸血医療での取り組みと課題－輸血関連インシデントから考えるダブルチェックの重要性－』

輸血部部长 飯野忠史

臨床検査技師 吉田剛士

- ・『胃管自己抜去 あなたはどう行動する

－当館インシデント症例から学ぶ－』

医療安全管理部副部長

呼吸器外科部長 武田雄二

（文責：内藤 光三）



感染制御部

感染制御チーム (ICT)
抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

1 2022年度スタッフ

(1) 感染制御部：

医師 福岡麻美、感染症看護専門看護師 稗田文代（～2023年1月）、感染管理認定看護師 三好恵美子（2023年2月～）、専従看護師 菱岡純子（～9月）・山口文美、小野原由香（10月～）、事務 永石浩子

(2) 感染制御チーム (ICT)

感染制御部：福岡麻美・稗田文代（～2023年1月）・三好恵美子・菱岡純子（～9月）・山口文美・小野原由香（10月～）・永石浩子、医師 (ICT)：三溝慎次・古賀美佳・吉富有哉・古賀佑一（～5月）・八板謙一郎・斧沢京子、薬剤師：佐野雅彦・田中康弘・武富光希、臨床検査技師：佐野由佳理・香月万葉・田口舜・矢野智彦・泉朱里、事務：今池彰（医事課）・村岡浩文（施設課）・坂井峻矢（～6月）・宮口あや（7月～）（財務課）・真子歩都（～6月）・白川翔平（7月～）（総務課）（延べ27名）



(3) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

上記ICTメンバーに加え、薬剤師：小塩和人・植松大智・南里本・井寺晃子・栗山桃花・森永ひかり・八頭司正稔・山田敦子・佛坂章子・野中美佳・宮原強・水田秀貴・黒部健太郎・塩川裕美・西村美里・松本夢実・瀧口由貴・永倉優子・宮原久美子・徳永晃（延べ47名）

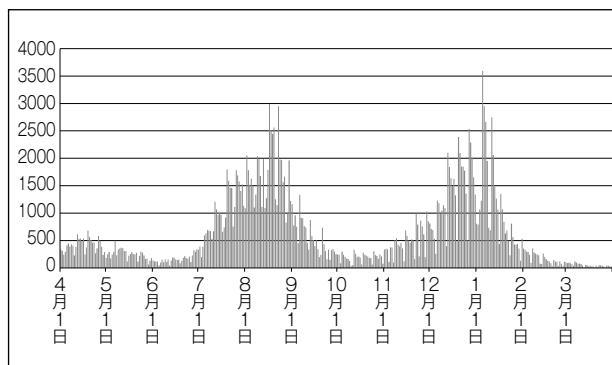


2 活動実績

(1) 新型コロナウイルス感染症対応

【参考データ】2022年4月1日～2023年3月31日における佐賀県の新規感染者数228,772名（第6波～第8波）。

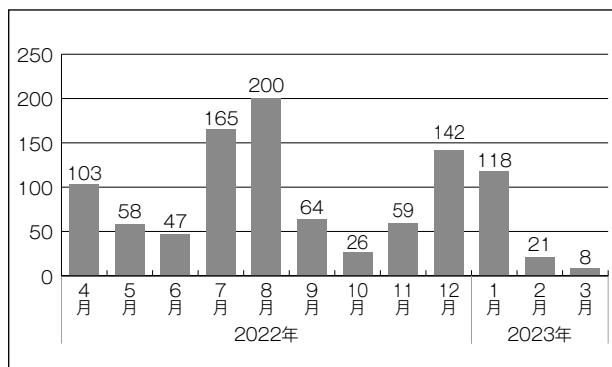
佐賀県新規感染者数（2022.4～2023.3）



① 好生館新規入院患者数

確定例1,011名、疑似症例70名（計1,081名）。

月別新規入院患者数（2022.4～2023.3）



患者重症度（確定例）：軽症646名、中等症Ⅰ147名、中等症Ⅱ213名、重症2名、無症状3名。

② 行政、館内関連部署との連絡、入院調整。

③ 施設・検査体制整備（施設課・検査部と協力）： 流行状況に応じた確保病床数の変更、検査方法・適応等の決定と全体への周知。

④ 感染対策関連

- ・N95マスク定量フィットテスト（53回、144名）、個人防護具着脱訓練（55回、144名）
- ・自走式UV照射実績：19部署、1,617か所
- ・マニュアル作成、改訂
- ・感染対策物品の確保
- ・クラスター発生時の対応

⑤ 職員の健康管理：体調不良職員対応278名、職員の同居家族への対応999名

⑥ ワクチン関連：職員等へのワクチン接種（4回

- 目) 6月24日・30日、8月8日～10日・12日・26日、9月2日 計803名。(5回目) 11月24日～25日、12月8日～9日 計607名、ワクチン接種に係る職員の研修
- ⑦館内における情報提供・共有：新型コロナウイルス感染症対策会議(22回)、病院運営会議、LINE WORKS等における情報提供
- ⑧佐賀県との連携：佐賀県新型コロナウイルス情報共有会議(計28回)、情報共有・意見交換、新型コロナ受入れ情報共有システムへのデータ入力等
- ⑨佐賀県議会との意見交換会：佐賀県・好生館における新型コロナウイルス感染症第7波の現状。2022年8月22日(好生館多目的ホール)
- (2) 感染対策向上加算1・指導強化加算取得と感染防止対策地域連携
- ①感染対策向上加算1
- 連携施設～富士大和温泉病院、白石共立病院、小柳記念病院、サンテ溝上病院
 - 感染防止対策地域連携カンファレンス(Web開催・4回)：2022年5月31日、8月30日、11月29日、2023年2月28日
 - 感染防止対策に関する相互評価(Web開催)：2023年3月27日佐賀大学医学部附属病院
 - 令和4年度新興感染症等(サル痘)を想定した訓練：2023年3月17日
- ②指導強化加算に基づく施設訪問(4施設)：2023年2月16日富士大和温泉病院、2月27日小柳記念病院、3月3日白石共立病院、3月20日サンテ溝上病院
- (3) 感染症診療新規コンサルテーション・インターベンション件数：970件、月平均81件
- (4) 感染症教育(感染制御部ローテーション)：初期研修医18名(2年次)
- (5) 抗菌薬適正使用推進：静注抗菌薬使用量(2021年度より+2%)、経口抗菌薬(第3世代セフェム、キノロン、マクロライド)使用量削減(2021年度より+8%)、2022年4月～タゾバクタム・ピペラシリン使用許可制導入
- (6) ICTラウンド：週1回、年間49回
- (7) 手指衛生向上のための取り組み
- ①手指衛生サーベイランス：2022年度1患者1日あたり手指消毒薬使用量平均26.7mL、遵守率年間平均66%
 - ②2022年度手洗いキャンペーン：2022年10月(手指衛生強化月間)：ポスター作成、ICTによる手指衛生ラウンド等
 - ③ブラックライトを用いた手洗い演習：参加者375名
 - ④手指衛生優秀部署の表彰(ベスト手洗い賞)：2022年12月～2023年1月(2か月間) 1位6階西病棟、2位4階東病棟、3位ICU
- (8) 感染対策コンサルテーション：1,316件(うち、1,011件はコロナ関連)、月平均約110件
- (9) 感染対策：今月の目標設定と結果のフィードバック(年間12項目)
- (10) 薬剤耐性菌サーベイランス：MRSA、ESBL産生菌、AmpC型βラクタマーゼ産生菌、薬剤耐性緑膿菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)、キノロン耐性大腸菌(新規)、*Clostridioides difficile*
- (11) 医療関連感染サーベイランス：
- ①集中治療室(ICU)部門：人工呼吸器関連肺炎・カテーテル関連血流感染症・尿路感染症(2021年度よりICUに業務移管)
 - ②中心ライン関連血流感染：救命救急センター、血液内科病棟
 - ③手術部位感染：消化器・肝胆膵外科(3ヶ月毎に結果フィードバック)
- (12) マニュアルの整備・改訂
- (13) 結核患者対応：
- 患者発生数13名(外来3名、入院10名)、排菌のある肺結核患者2名、接触者健診対象者：職員27名、患者12名
- (14) 新興・再興感染症対策：
- ①新興感染症の発生等を想定した訓練：2023年3月17日サル痘を想定した訓練実施
 - ②佐賀県東部地区感染症の審査に関する協議会委員：月2回協議会出席
 - ③佐賀県麻しん風しん対策推進会議委員
- (15) 職員の健康管理・職業感染防止対策：
- ①各種ワクチン接種(B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ) 計13回
 - ②針刺し・切創(28件)、皮膚・粘膜曝露(8件)への対応
 - ③T-SPOT.TB検査陽性職員への対応：1名
- (16) 感染症に関する情報発信：
- ①ICTニュース発刊：毎月1回、年12回
 - ②電子カルテトップ画面、デジタルサイネージ、LINEWORKSなど

3 教育・研究・その他の活動

- (1) 院内研修会・講演会
- ①院内感染対策研修会(2回)：

- ・2022年6月2日：(ア)ESBL産生菌を減らす！
～当館の現状と対策～、(イ)当館における経口
抗菌薬の使用状況と適正使用に向けた取り組み
- ・2022年11月10日：【緊急課題】薬剤耐性菌急増、
(ア)2022年度当館の薬剤耐性菌検出状況、(イ)
たかが手洗い、されど手洗い、(ウ)その抗菌薬、
本当に必要ですか？

②新規採用職員オリエンテーション：2022年4月
1日・4日・7日（3回）、その他中途採用者
に対して11回

③部署別感染対策研修会：外科カンファレンス
（SSIサーベイランス報告）2回（4月28日、
10月27日）

④看護部感染リンクナース研修会：7回

⑤その他：

- ・令和4年度第1回地域医療支援病院委員会、新
型コロナウイルス感染症第6波、現時点までの
まとめ、2022年6月14日（好生館多目的ホール）
- ・令和4年度佐賀県医療センター好生館県民公開
講座 知っとく納得ワクチンのあれこれ 「お
となのワクチン」6月7日

(2) 院内勉強会

①感染症診療に必要な微生物の基礎知識・血液培
養陽性結果の解釈：2022年7月14日

②研修医に必要な抗菌薬の基礎知識：2022年8月
25日

(3) その他の活動

- ・佐賀県感染症対策専門家チーム派遣事業・現地
指導（稗田文代）：2022年12月6日

4 今後の課題と展望

2023年5月8日より新型コロナウイルス感染症
が5類感染症に移行し、withコロナに向けた新た
な段階に移行した。新型コロナの流行はまだまだ続
きそうであるが、医療体制は新たな体系に段階的に
移行することになる。新型コロナウイルス感染症対
応がようやく一段落し、今後はコロナ禍の間不十分
となっていた院内感染対策や抗菌薬適正使用に注力
したい。

また今後も必ず出現する次なる新興再興感染症に
対する備えを進めることは当館の重要な使命であ
る。館内での体制整備と同時に、行政や地域の医療
機関と連携しながら、地域全体で新興感染症等に対
応できる医療提供体制の構築を目指していきたい。

（文責：福岡 麻美）

医療情報部

1 はじめに

更新により令和2年7月に運用開始した病院情報システムは、令和4年度も特段大きな障害等の発生もなく、安定的に稼働した。

そうした中で、医療情報部は、「充実した安心安全の医療を、ICTを通じて支える」という基本理念の下、情報システムの企画・運用、診療情報管理、DPC、がん登録といったいわゆる「本務」に加え、地域医療連携や医療安全の推進の支援、診療データ・経営データ分析など、病院運営に資する役割を積極的に果たすことができた。

2 スタッフ

医療情報部は、相部副館長の統括の下、田中医療情報部長（消化器外科部長兼務）、医療情報係2名、図書診療録係12名（診療録管理担当8名及びスキャン担当4名）及びがん登録係4名で運営を行った。

3 業務実績

[情報システム関係]

1 病院情報システムの運用

下表の情報システム群からなる病院情報システムを安定的に運用するため、システム監視、メンテナンス、ヘルプデスク、スケジュール管理、コンテンツ作成、ドキュメント・資産管理、システム障害時応急対応、非常時対応等を実施した。（令和4年度における要望事項依頼書の処理件数：975件）

なお、上記の実施に当たっては、西鉄情報システム株式会社に業務委託（病院情報システム運用支援業務委託）を行った。

診療部門関係
電子カルテシステム
歯科電子カルテシステム
重症病棟システム
生体情報管理システム
麻酔記録管理システム
医療機器連携システム
血糖インスリン管理システム
眼科診療支援システム
分娩集中監視システム
診療文書作成/管理システム
統合診療支援プラットフォームシステム
手術映像システム
電子カルテシステム全文検索機能
診療DWHシステム
クイックリファレンスツール
電子ジャーナル・文献閲覧システム

AI問診システム
救急日誌システム
ICU日誌システム
SCU日誌システム
検体検査部門関係
臨床検査システム
血液ガス管理システム
細菌検査システム
感染症コントロールシステム
病理検査システム
輸血・血漿分画製剤管理システム
採血管準備システム
生体検査部門関係
医用画像管理システム
モニタ品質管理システム
DICOM画像検像システム
放射線情報管理システム
放射線読影レポートシステム
3D画像配信システム
3D医用画像ワークステーションシステム
被ばく線量管理システム
整形外科計測ソフトウェア
生理検査情報管理システム
循環器動画画像ネットワークシステム
内視鏡情報管理システム
診療支援部門関係
手術部門業務支援システム
放射線治療情報管理システム
透析管理システム
リハビリテーションシステム
栄養管理システム
ME機器管理システム
健診システム
褥瘡管理システム
緩和ケア管理システム
インシデント・アクシデントレポートシステム
器材管理システム
ベースメーカー遠隔モニタリングシステム
薬剤部門関係
調剤支援システム
注射薬払出システム
薬剤管理指導業務支援システム
医薬品情報検索システム
定数配置薬請求管理アプリケーション
看護部門関係
看護情報携帯端末システム
看護管理日誌システム
看護勤務管理システム
看護キャリア開発支援システム
ナースコールシステム
医事部門関係
再来受付システム
保険証認証システム
院内表示システム
診察等順番案内アプリ
自動精算システム
診療費後払いシステム

DPCコーディングシステム 医事会計システム レセプトチェックシステム 施設基準管理システム 診療情報管理システム がん登録支援システム オンライン資格確認
地域医療連携部門関係
病診連携システム インターネット予約システム 地域医療連携ネットワークシステム 地域連携パスシステム 医用画像CD/DVDインポートシステム 医用画像CD/DVDパブリッシュシステム フィルムデジタイズシステム
事務部門関係
DPCベンチマークシステム 病院経営情報分析システム 経営管理支援システム 人事評価システム 人事給与システム 勤怠管理システム 人事申請承認システム 出退勤管理システム 財務会計システム 安否情報システム 文書管理システム/検査部WFシステム デジタルサイネージシステム 電子メールシステム アセット・パフォーマンス・マネジメントシステム
その他部門関係
二要素認証システム 院内ポータルシステム/利用者管理システム グループウェアシステム ワークフローシステム 会議室等予約システム eラーニングシステム データビジュアライゼーションBIシステム BIレポートプラットフォームシステム FileMaker基盤 術場カメラシステム ERカメラシステム

2 システム改修等対応

ユーザからの要望等を受け、システム改修等を実施した。

令和4年度に実施した主なシステム改修等の項目は、次の通り。

- ・医事会計システム出産育児一時金機能構築
- ・医事会計システム未収金一覧出力仕様変更
- ・ペースメーカー遠隔モニタリングシステム仮想環境構築
- ・バイタルサイン測定機器連携対応
- ・ファイアウォール機器ファームウェアアップデート対応

3 情報セキュリティ対策

情報セキュリティを取り巻く最新の動向を踏まえ

つつ、ユーザに対し、情報セキュリティに関する啓蒙活動を実施した。

- (1) 情報セキュリティの専門家による研修会の開催
情報セキュリティの専門家を招き、全職員を対象として、情報セキュリティ研修会を開催した。
(令和4年10月6日の病院マネジメント推進会内で実施)

講師：西鉄情報システム株式会社

ICT推進本部

プラットフォームサービス部

松岡 征矢 氏

演題：情報セキュリティ10大脅威

4 佐賀県診療情報地域連携システム協議会事務局業務

平成28年度より、佐賀県診療情報地域連携システム「ピカピカリンク」の協議会事務局業務を当館が拝命し、医療情報部がその事務に当たった。

(1) 協議会の開催

令和4年度は全1回の協議会を開催し、ピカピカリンクの運営について審議を行った。

第1回(令和4年8月30日)
・副会長の指名について ・ピカピカリンクの現状について ・令和5年度全国ID-LINK研究会の開催について ・2022年度以降のピカピカリンク運営サポート委託に係る費用の負担について ・災害時のピカピカリンク活用について ・報告事項

(2) ピカピカリンク勉強会の開催

ピカピカリンクヘルプデスク（NPO法人佐賀県CSO推進機構）と協力し、県内各地において、ピカピカリンク勉強会を開催した。

- ・小城市民病院医局会
(令和4年6月22日、11名参加)
- ・第70回緩和ケア症例検討会
(令和4年6月22日、約90名参加)
- ・リレーフォーライフジャパン
(令和4年9月17日、約20名参加)
- ・白石町歯科医師会
(令和4年10月6日、10名参加)
- ・好生館シンポジウム
(令和5年2月10日、約60名参加)

[診療情報管理関係]

1 診療録監査

診療録の質向上を目的として、毎月、医師と診療情報管理士が共同で診療録監査を実施している。

各監査項目をスコア化した総合スコアの年度平均は、令和元年度89.8%、令和2年度92.2%、令和3年度は91.4%と推移し、令和4年度は93.3%と前年度から1.9ポイント上昇した。前年度と比較するとスコアが上昇していることから診療録共同監査が当館における診療録の質向上に資する役割を果たしていることの現れであると考え。

監査項目の中で、禁忌アレルギー情報の共通登録・インフォームドコンセントの共通登録・診察記事毎日記載の3項目については、特に質向上に注力している。

2 退院サマリー進捗管理

平成25年度から実施している週1回の退院サマリー進捗管理（サマリー作成依頼、1週間毎にサマリー作成率の速報値を院内メールで各医師に報告、診療科別・医師別の進捗管理と作成率向上に向けた目標日数の提案）を、継続して行った。

退院後2週間以内サマリー作成率の年度平均は、令和元年度94.5%、令和2年度96.3%、令和3年度97.1%と推移してきており、令和4年度は97.8%と前年度より0.7ポイントの上昇であった。令和5年度も科別のアナウンスをさらに強化し、作成率向上を目指す予定である。

3 DPC

平成27年度にDPC業務を業務委託からすべて職員体制に変更して8年目となった令和4年度も、継続してDPC精度管理に注力した。

医師・関係部署との連携を強化し、適切なDPCコーディングに取り組み、副傷病名については、LINEWORKSにて月1回医師向けに情報発信を行った。DPC適正化委員会ではDPC精度に関する情報を詳細に発信しDPCルールの遵守に努めた。

4 NCD等の各種データ登録

従来、NCDを始めとする施設認定や専門医制度等に必須の各種データ登録は、主に各診療科に配属された医師事務作業補助者が分担していたが、令和元年度より、多数の診療科について、図書診療録係による館内一元管理体制に移行した。

【がん登録関係】

1 院内がん登録業務

当院を受診したすべてのがん患者について診断、治療、予後に関する情報を集め、整理・保管を行った。

これらの情報は、次の機関にデータ提出を行った。

①院内がん登録全国集計及びQI研究（国立がん

研究センター）

・全国集計：2021年診断症例

・予後情報付き集計：2010年診断症例10年予後、2015年診断症例5年予後

・QI研究：2020年診断症例に対するDPCデータ

②がん登録等の推進に関する法律に基づく「全国がん登録」の届出（佐賀県）

2 全国・地域がん登録業務

佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』については、平成28年1月のがん登録推進法施行に伴い、「全国がん登録」として届出が義務化された。

今年度は、以下の業務及び各調査依頼に係る提出を実施した。

（全国がん登録に係る調査依頼・提出：国立がん研究センター）

・罹患データ：2021年診断症例

・廻り調査：2020年死亡診断症例

・住所異動確認調査：2020年診断症例または2020年死亡診断症例に係る住所異動

（地域がん登録）

①生存確認調査（住民票照会実施）

・7年生存確認調査（2014年診断症例）

・10年生存確認調査（2012年診断症例）

②調査依頼対応

・届出施設からの予後調査依頼対応

3 情報発信について

①館内のデジタルサイネージにて「がん検診受診」の啓発を行った。

②佐賀県医師会報にて「全国がん登録」の概要や罹患状況等を案内した。（No.1194掲載）

③日本がん登録協議会ニュースレターNo.54へ寄稿した。（佐賀県がん登録室紹介）

4 今後の課題と展望

情報システムに関しては、引き続き、病院情報システムの安定的な稼働を図りつつ、病院運営や経営に関する諸課題に対し、システム的な観点からソリューションを提案し、解決を支援していきたい。

診療情報管理業務においては、診療科の要望を踏まえつつ、NCDデータ登録の対象診療科の拡大を目指していく。さらに、データの活用に関しては、NCD Helperの抽出機能の活用や、医療情報係とも連携したデータベースの構築・二次利用にも取り組

む予定である。

がん登録業務においては、構築データの正確性と利活用推進を継続し、次のような取組を推進していく。

- ・生存確認調査実施により信頼性を高める。
- ・全国がん登録業務においては、県主管課と共同し、届出施設と件数増加、正確な届出情報収集に努め、がん対策に寄与するデータ提供を拡充していく。

(文責：峰 和樹)

医療支援部

1 スタッフ

2022年度のスタッフ

職 名	氏 名
薬剤部長	草葉 一友
栄養管理長	小根森智子
検査部技師長	平野 敬之
リハビリセンター技士長	市丸 勝昭
MEセンター技士長	馬場 英明
放射線部技師長	濱田 洋
相談支援センター	原田 健作

2 医療支援部門会議

毎月第3水曜日に医療支援部門会議を行っている。本会議は医療支援部門の意見を集約し統括責任者会議に報告すること、および統括責任者会議の意向を速やかに各医療支援部門に伝達することを目的にしたものである。また、医療支援部門は、チーム医療を推進することにより、医療の質の向上と医師・看護師の業務負担軽減に寄与している。

3 各部門が関わった2022年度主な診療実績

(ア) 薬剤部

薬剤管理指導件数は14,395件/年で新型コロナウイルス感染症の影響はあったが前年度を13%上回った。また抗がん剤使用患者には保険薬局と連携して安全な服薬をサポートする連携充実加算を取得しており803件/年実施し前年度を21%上回った。更に入退院支援センターでの活動は全診療科に広がり6,332件/年実施し前年度を26%上回った。薬剤師が欠員の中ではあったが充実した活動ができた。

(イ) 栄養管理部

調理スタッフ・管理栄養士の多数の欠員や途中退職の中でも、食事の提供を安定して継続するために、選択食の休止、一部メニューの変更を行い、管理栄養士も全身体制で厨房業務に従事した。そのため、必須の栄養管理計画、入退院支援センター対応、食事療法目的入院の栄養指導を優先し、その他の臨床栄養管理業務を大幅に縮小した。入退院支援センター面談件数が前年比134%に増加した以外は、総栄養指導件数（前年比52%）、栄養情報提供書（同71%）、入院患者面談数（同44%）など、前年度より大幅に減少した。

(ウ) 検査部

検査件数は2,391,131件、外部委託検査数は44,130件と、過去5年間の中で最も多かった。新型コロナウイルス遺伝子検査の検査体制を拡充し24時間体制を継続、19,632件の検査に対応した。

(エ) リハビリテーションセンター

新患処方件数は理学・作業・言語療法合わせて6,822件（前年度比+639件）、診療報酬合計は療法師数数の増加が影響し271,689,550点と前年度に比し6.5%増加した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により外来心臓リハビリの中止など、特に外来部門の患者実施件数は減少したが入院部門の実施件数、単位数はともに増加した。早期離床・リハビリテーション加算の対象病棟は、ICUに加え救命救急センターへ拡大した。

(オ) MEセンター

臨床症例（血液浄化関連・手術部関連・心臓カテーテル関連）件数は5,992件/年で、前年とほぼ変動はなかった。医療機器点検件数については、前年度より3,000件程度増加し40,000件を超えた。今年度11月より循環器内科医師と連携し、心臓植込み型デバイスにおける遠隔モニタリング管理業務を開始した。

(カ) 放射線部

画像診断検査や治療等の総件数は、新型コロナウイルス発生前の件数に戻ってきたが、核医学検査（RI）や放射線治療件数は減少が続いている状況である。COVID-19確定患者の画像検査（胸部Xp・ポータブルXp・CT検査等）の撮影は2,930件であった。

(キ) 相談支援センター

相談件数は12,936件/年となっており、相談内容として最も多いのは転院・退院支援で、全体の67%を占めている。退院支援に関する診療報酬は、入退院支援加算が12,388件/年、介護連携指導料が221件/年となっている。7月より退院支援業務を看護部とタスクシェアしており、入院から退院までよりシームレスな支援を行うよう努めている。

4 医療支援部門実習生の合同見学実習

各医療支援部門で実務実習を行っている学生が、他の医療支援部門を訪問し各部門のスタッフから業

務内容の説明を受ける見学実習を開催した。

薬学部学生 8 名、放射線部学生 4 名、検査部学生 1 名、栄養管理部学生 7 名、ME センター学生 1 名の合計 21 名が見学を行い前年度より 6 名増加した。他の医療支援部門の職種がどのような業務を行っているのかを学び医療職としての視野を広げ多職種連携の重要性を理解できたようだ。

5 その他、医療支援部門の実績

- ・各部門のトピックスを毎月 2 部門ずつ病院運営会議で報告
- ・年数回、医療支援部門教育セミナーを開催
- ・病院機能評価認定更新に関する周知および対策検討
- ・各部門における専門・認定名簿の作成、更新

(文責：草葉 一友)

++ 患者・家族総合支援部

患者・家族総合支援部は「地域の拠点病院として患者とその家族に安全で良質な医療を提供する」ことを目的に設置された。組織体制としては、①地域医療連携センター ②入退院支援センター ③相談支援センター（一般、がん）の3本柱で業務運営している。患者の初診、入院から転退院、退院後の外来に至るまで総合的かつ包括的に支援することが可能である。

各センターの活動報告は別途ページに掲載されている通りであるが、定期的（1回/月）に患者・家族総合支援部センター長会議を開催し、センター間の情報共有をしている。今後ともさらなる医療の質向上に寄与するべく、患者と家族に選ばれる病院となることを目標としている。

（文責：内藤 光三）

地域医療連携センター

1 はじめに

地域医療連携センターは、事務・看護師で構成している。

- ・事務～予約業務・データ管理・情報提供
- ・看護師～医療相談・在宅支援・医療機関訪問

地域医療支援病院として地域の医療機関と連携・協力しながら良質で安全な高度医療の提供をめざしている。

2 スタッフ

職 名	氏 名	備 考
センター長	緒方 伸一	医師
副看護師長	宮崎 香織	
看護師	江頭 真李香	
看護師	社頭 夕佳里	
看護師	瀬戸 亜希	
事務係長	本告 信博	
主 事	岡安 美佐都	
主 事	福岡 友起	
主 事	前田 綾子	
事 務(臨時)	川副 菜穂美	
事 務(臨時)	東島 幸	

(令和4年7月1日現在)

3 活動報告

- 1) 連携実績の把握(実績収集とデータベース化、各種統計作成)
各診療科別(各月)の紹介数・逆紹介数を毎月把握し実績を確認。
年度平均：地域医療支援病院紹介率95.3%、地域医療支援病院逆紹介率146.3%
- 2) 『紹介患者専用窓口』業務
紹介状を持参した患者の対応、紹介元医療機関への報告(来館・入院・手術・退院・死亡)、地域医療機関との連携調整を行った。
紹介患者総数：18,034人(初・再診含む、延べ人数)
- 3) 開放型病院 指定病床数 10床
今年度延べ入院患者数：1,573人
指定病床利用率：43.1%
- 4) 事前予約業務
インターネットによる紹介実績：2,105件
FAXによる紹介実績：4,070件
個人による紹介実績：880件
- 5) 術前口腔ケア歯科診療

佐賀県歯科医師会と連携し、地域の歯科医師に術前患者の口腔ケア歯科診療を依頼。地域の歯科医師より診療後の報告書をFAXにて受け、連携を行った。実績：266件

- 6) 診療情報地域連携システム参加同意書
ピカピカリンク参加同意(連携患者数)
実績：1,851件
- 7) 外部持込CD ウイルスチェック
連携医療機関より提供されたCD-Rのウイルスチェックを行っている。実績：5,443件
- 8) 外部持込CD PACS入力
連携医療機関より提供されたCD-R画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：5,373件
- 9) 外部持込フィルム PACS入力
連携医療機関より提供されたフィルム画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：72件
- 10) CD出力
連携医療機関への診療情報提供目的でのPACS出力を行っている。実績：4,408件
- 11) 医療機関との面会
連携医療機関とZoomを使用しての面会。
面会件数：75件
- 12) 地域連携に関する情報提供
医療機関からの電話又は文書による診療情報提供書等の問合せ対応。実績：1,130件
館内からの診療情報提供依頼、予約取得等の対応。
実績：447件
連携先へ外来医師不在連絡
- 13) リーフレット
患者さんへかかりつけ医を持ていただくことと、先生方との連携を深め、逆紹介を推進していくための取り組み。
医療機関数：58件、総発行部数：275枚
- 14) 地域連携(脳卒中、大腿骨)パスのデータ管理
地域連携(脳卒中、大腿骨)パス、カンファレンスに参加。連携病院との意見交換を行った。
脳卒中パス適用患者数：210人
大腿骨パス適用患者数：189人
- 15) 医療相談対応(電話・窓口)
相談件数：473件
- 16) 在宅支援(訪問看護)に関すること

訪問診療・看護の必要性について考慮、支援を行った。

退院前患者カンファレンスに参加。実績：195件

17) 各種研修について

新型コロナウイルス感染対策のため、各種研修会は中止となった。

18) 地域医療支援病院委員会（年2回開催）

《報告事項》令和3年度 事業実績報告・地域医療研修状況、令和4年度 地域医療研修予定（令和4年6月14日開催）

《報告事項》令和4年度 事業実績報告・地域医療研修状況、令和4年度 地域医療研修状況（令和4年4月～令和4年11月）（令和5年2月7日開催）

4 今後の課題と展望

地域医療連携センターでは、ご紹介頂く初診患者さんに対して、事前に予約して頂くよう案内している。初診紹介患者さんの8割が事前予約となっており、事前予約が定着しつつある。今後も事前予約のメリットを最大限案内していき、予約件数の増加を図っていきたい。

看護師は、電話や窓口の医療相談、転院（前方）調整、入院・外来患者の在宅支援業務を中心に行っている。院内外他職種とシームレスな関係を構築し、安全で良質な医療提供を常に心がけている。

情報共有のツールであるピカピカリンク（診療情報地域連携システム）を利用することで、タイムリーな情報提供が行えるようになった。今後も利便性を継続的にアピールし、閲覧施設の拡充、登録患者数の増加を目指す。

退院前共同カンファレンスの開催、患者家族相談、地域との連携が年々増加している。令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでのカンファレンスを継続して行った。

令和3年4月より各病棟に退院支援看護師を配置。支援が必要なすべての患者に安心して生活できる体制を整えるために、院外とのさらなる連携強化、退院支援看護師の育成、院内連携の充実などが今後の課題である。

（文責：本告 信博）

令和4年度 地域医療従事者研修会（主催：地域医療連携センター）

開催日	内 容 (敬称略)	参加者(名)		
		館内	館外	合計
新型コロナウイルス感染対策のため、研修会は中止となった				

++ 入退院支援センター

1 はじめに

入退院支援センターは、予定入院患者に入院決定時より多職種で関わり、安心・安全に入院生活を送ることができるように、医療面や生活面の問題解決の早期着手をめざし2018年4月に稼働を開始した。

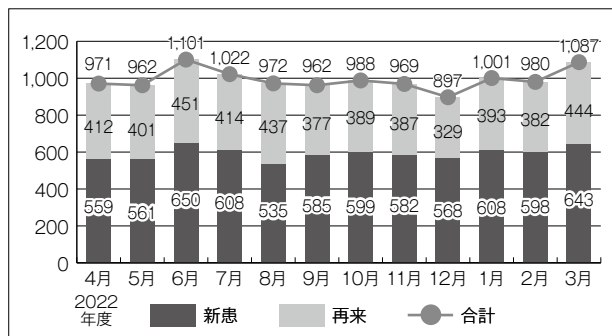
2 スタッフ

2022年度 4月	
センター長 医師	1名(兼任)
副センター長 企画経営課長 副看護師長	1名(兼任) 1名(兼任) 1名(専任)
看護師	12名(専任)
薬剤師	8名(交代制)
医師事務作業補助者(DA)	3名(専任)
管理栄養士	1名(専任)
MSW	予定入院病棟 MSWが担当
事務	1名(専任)

1) 対応診療科数と介入率

	2022年												2023年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月	3月
介入診療科数	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	27	27	27	27
予定入院介入率(%)	91	92	93	92	91	90	92	91	91	95	92	91			

2) 対応患者数の推移



3) 各職種の活動

各職種が専門性を活かし、それぞれが患者と関わる中で、知り得た情報を共有し、連携・協働しながらPFM (Patient Flow Management)を行っている。

●看護師

2022年度は皮膚科の介入を追加し27診療科対応となった。1日あたりの患者総数、最高73名、平均49名。看護師一人あたりの対応患者最高16名、平均6.5名であった。

入院が決定し、入退院支援センター介入患者を各々の看護師が受け持ち、入院までのスケジュール管理、入院生活の説明やクリニカルパスを使用した治療・検査の説明などを行っている。また入院前に患者の情報収集を行い、様々な視点からリスク評価し他職種や病棟・外来と連携することで患者が安全に安心して入院生活が送れるよう支援している。

入院前より退院後を見据えた関わりをすることで、入院決定時から退院までの一貫した看護の提供と患者サービスの充実を図っている。

(文責：四方 みゆき)

●医療ソーシャルワーカー (MSW)

医療ソーシャルワーカー (以下MSW) は、患



3 活動実績

開設年度は4診療科の介入から始まり、2022年度には全診療科26に加え、新しく皮膚科の増設に伴い介入を開始し27診療科となった。小児患者の対応も拡大し、整形外科、形成外科、歯科、眼科の小児患者の対応を開始した。介入した予定患者総数は11,912名(新患7,096名、再来4,816名) 介入率は91.6%となった。

者の入院前～退院後の経済面や社会面、生活面などの課題に対して、入院前に抽出を行い、その後の支援にスムーズにつなげられるよう介入を図っている。

介入方法としては、入院前スクリーニングシートの項目に該当した場合、または入退院支援センター看護師がMSWの介入を必要と判断した場合にMSWが患者・家族と面談を行っている。

2022年度の介入実績は124件で、入院前スクリーニングシート該当での介入が76件（61%）、看護師からの介入依頼が48件（39%）となっている。

入院前スクリーニングシートの該当項目で最も多かった内容は、「医療費や生活費など経済的な心配がある」45件（48%）で、次いで「退院後の生活や転院などを相談したい」32件（35%）である。また看護師からの介入依頼で最も多かった内容は、「転院相談」19件（40%）で、次いで「介護保険関連」5件（10%）である。このような相談への介入によって、事前の社会保障制度の提案や患者・家族の課題の把握が可能となった。これにより入院後の早期介入やシームレスな多職種連携を行うことができおり、入院前にMSWが介入することは、患者のリスクマネジメントを行えていると考える。

（文責：細川 萌）

●薬剤師

薬剤師は、医療機関で薬剤を処方されている患者に介入し、お薬手帳などを参照し処方薬剤の詳細や服用状況の確認、副作用・アレルギー歴の聴取等を行っている。また、手術や検査の前に中止が必要な薬剤について、医師の休薬指示に基づき休薬説明を行っている。サプリメントや市販薬の継続服用を希望する患者、気管支喘息および薬剤アレルギーのある患者にも介入している。

2022年度はのべ6,330件（前年度比1.35倍）に介入し、休薬対象薬剤を服用している878件（前年度比1.12倍）のうち32.2%：283件（前年度27.2%：212件、前年度比1.33倍）で医師に対し休薬の提案を行った。休薬提案以外での介入事例としては、保険薬局への中止薬剤の抜き取り依頼やサプリメント・市販薬の中止説明などを行っている。

また、保険薬局やかかりつけ医との情報共有を目的とし、2023年2月より休薬説明を行った患者に対し「検査・手術に伴う休薬についての説明

書」をお薬手帳にも貼付している。保険薬局へ情報提供を依頼した際に返信用として使用する「入院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書」を整備し、当館ホームページに掲載している。

（文責：仲 真美恵）

●管理栄養士

管理栄養士は入院前の食事状況の確認、栄養評価、必要に応じて栄養指導を行っている。2022年度に介入したのは6,404人で、2021年度の1.3倍に増加した。栄養評価はALB値等の検査所見や食事摂取状況、体重変化等から総合的に行い、良好85.1%、やや不良9.9%、不良5.0%であった。栄養指導件数は444件と2021年度の1.2倍に増加した。指導の対象疾患はがん（40.7%）、糖尿病（32.6%）が多かった。栄養状態が不良または低下のリスクがある患者、また、食事療法が必要な基礎疾患を持つ患者に対しては、入院までの食事内容の改善方法を説明している。特に手術予定の患者については栄養状態の維持・改善、血糖コントロールを目的に積極的に介入している。

また、入院時から適切な食事提供ができるよう食事内容の調整を行っており、対応が必要だった患者は全体の52.5%、嗜好対応や栄養量の調整が多かった。個別での特別な対応が必要な場合には病棟担当管理栄養士と情報共有し、スムーズに対応できるようにしている。

（文責：川崎 愛弓）

●医師事務作業補助者（DA）

医師事務作業補助者（以下DA）は入院前に必要な検査等の確認を行い、医師の指示のもと検査オーダーやパスの代行入力、コンサルトシート作成を行っている。DAの対応数は年間総数9,796名、一日平均39.8名（前年度比1.39倍）と増加しており、内DA代行入力率平均45%にあたる約4,408名に対して代行入力を行った。検査結果で異常値を認めた場合や術前検査不足等に対し追加検査を行っており1,788件の検知確認し追加検査等1,743件の代行入力を実施した。

その他、手術前や化学療法開始前の患者さんに対し周術期口腔機能管理のため院外歯科医への紹介や動揺歯などを認めた場合を含め院内歯科口腔外科と連携しコンサルトシート作成を行っている。

肺血栓塞栓予防管理料算定のためのチェックリスト作成については、未作成率月平均80.5%、作

成依頼後は98.8%の作成率を推移し、昨年度の82.8%から更に改善することが出来た。

今後も医師の業務負担の軽減のため、患者さんの術前リスク軽減のためにもDAのスキルをあげ正確かつ柔軟に業務を行い、医師はもちろん他職種との連携を図り、信頼して代行入力を依頼していただけるよう対応していきたい。

(文責：長谷川 愛)

4 今後の課題と展望

2022年度は皮膚科の追加、全診療科の小児対応を実施した。

今後は、各科で対応していない疾患や目的別の入院について拡大予定。今年度は緩和ケア科の症状コントロール目的入院、産婦人科の通常分娩への介入予定である。

患者増加が必然になってくる中で、業務改善などを行いより効果的、効率的な対応を行い、患者家族の満足が得られるようにしていきたい。

(文責：四方 みゆき)

++ 相談支援センター

1 はじめに

相談支援センターとは

一般的な病気やがんにかかる医療情報の提供、医療費や医療扶助など各種公費負担制度や福祉サービスの紹介、その他の相談支援、療養上の相談などの業務について主に医療ソーシャルワーカーが担っている。

相談では、患者さんや家族のQOLの向上・自己実現・権利擁護のため、福祉、医療の視点で多職種や関係機関、地域と連携し、患者さんや家族に寄り添った支援を行う。具体的には、転院や入退院、在宅療養の支援、介護保険、難病指定、各種障害者手帳交付、傷病手当金支給申請、障害年金、パーキングパーミットの情報提供や申請支援等、医療を受けるなかで該当する制度などを、その患者のオーダーメイドとして共に考え、確かな情報提供を行う。多様性を尊重し、ケースワークからソーシャルアクションまで多岐に渡る活動を行い、地域医療、地域包括ケアシステムの推進に貢献する。

メディカル・ソーシャルワーカー（MSW）とは

医療機関に配置される多くは「社会福祉士」の国家資格を得た医療・介護・福祉の相談支援の専門職である。医療費や療養生活に関わる制度で、不明点や心配事などについて福祉の立場から広く相談に応じ、確かな情報提供や支援を行っている。

*メディカル・ソーシャルワーカーは、呼称であって資格の名称ではない。

2 スタッフ

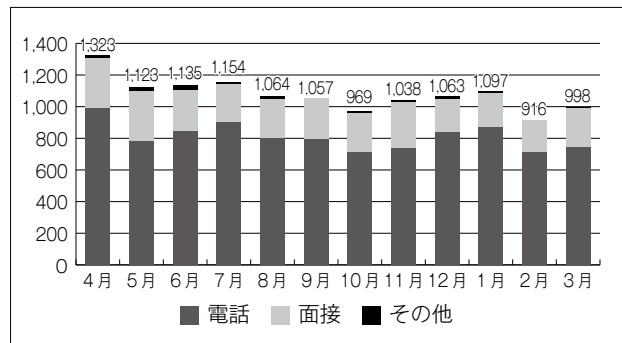
相談支援センター スタッフ紹介

職 名	氏 名	配 置
相談支援センター長	松本 健一	一般・がん
副主査 MSW	岩村 昌子	がん
副主査 MSW	高橋 亜衣	一般
副主査 MSW	山口 可奈	一般・がん
副主査 MSW	大西 知里	一般
MSW	細川 萌	一般・がん
MSW	馬場 早希	一般
MSW	西牟田菜穂子	一般
MSW	林 由紀	一般
MSW	坂本 大輔	一般

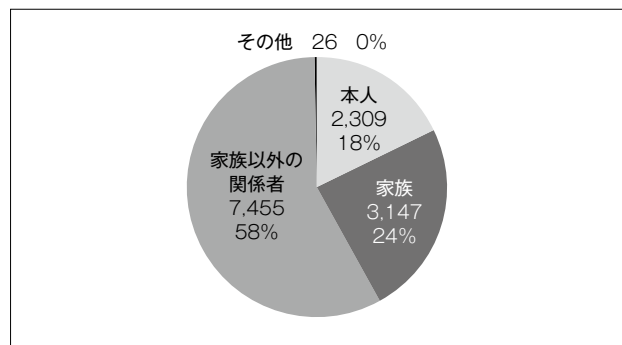
職 名	氏 名	配 置
MSW	荒木 唯	一般
事務	鮎川 映子	一般

3 活動実績

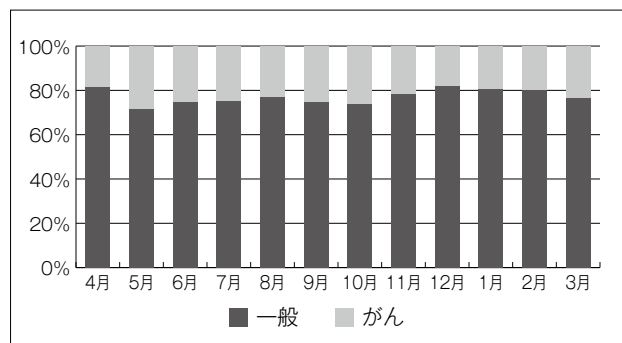
1) 相談件数の推移（相談手段別）



2) 相談割合（相談者別）



3) 相談割合（相談内容別）



コロナ禍以降、家族の面会制限等により相談の手段として電話相談が増加傾向にある。

また、今年度7月より、退院支援業務を看護部とタスクシェアし始めたことにより、業務の効率化を図っている。

4 一般相談支援センター

1) 退院支援

一般相談支援センターでは令和4年度6月から、退院支援の充実を図る為、看護部との連携強化を行った。

各病棟に退院支援看護師が1人配置され、メディカルソーシャルワーカー（以下MSW）と看護師それぞれの視点で退院支援を検討・協働しながら、患者さんが退院後も安心して療養・生活できるよう支援している。また、これまでMSWは患者さんのADLなどの情報収集に時間がかかったが、退院支援看護師が情報をまとめることで転院調整までの時間が短縮された。また、地域医療連携センターの看護師による転院調整も始まり、医療依存度が高い患者さんの退院・転院支援に専門性を発揮していただいている。

2) 被害者支援

令和4年度の虐待、DV、性暴力被害など危機介入で対応した件数（延べ件数）は、児童虐待32件、DV24件。どちらも身体的な虐待や暴力が多かった。性暴力被害相談は266件。例年通り10代から20代の被害が多く、性風俗産業における被害が多かった。また、男児の相談件数が増加傾向にあり、関係機関との支援会議に参加した。令和4年度は、警察や行政から相談を受けるケースが多く、連携しながら医療から福祉へ支援の継続を図った。

3) 外国人対応

令和4年度の外国人対応（延べ件数）は368件。当館に受療した外国人患者さんの対応言語で多い順は、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ネパール語。診療科は外国人留学生の妊産婦の受診などで産婦人科受診が一番多かった。国際交流協会による通訳派遣やタブレット端末の貸出を普及し、外国人患者さんの不安軽減や医療の提供の一助を担っている。

5 がん相談支援センター

がん対策基本法に謳われる、がん診療連携拠点病院の必置義務として位置づけられた窓口で、諸制度の提案やセカンドオピニオンに関すること、アスベストにかかる労災認定や環境被害に関すること等の専門的な相談を受けている。

診断や治療の状況に関わらず、どのタイミングでもがんに関する様々なことを相談することができる。また、匿名での相談も受け付けており、当館に受診歴がなくとも相談可能となっている。

当館のがん相談支援センターは、相談しやすい環境で相談者を迎え、安心できる対応を目指し、がん患者の「からだ（Bio）」「こころ（Psycho）」「くらし（Social）」にかかる様々な相談に応じている。2022年度は、コロナ禍にあり、治療と仕事の両立に係る不安や、がんに関する正しい情報のつかみにくさも相談内容に浮上した。当センターは、こうした時期だからこそ、患者・家族がより確かな情報を得るために、がんと向き合う読本の発行し、事実に基づいた確かな情報の確認の呼びかけに注力した。

1) 相談件数と内容

2022年度のがん相談件数は、コロナ禍にあり、電話相談件数が増加した。相談内容には、治療機会の延期や減少による不安ばかりではなく、漠然とした不安も含まれており、こうした内容では電話であっても相談時間が比較的長くなっている。また、ゲノム医療等、新しい治療分野の情報提供を求める相談も漸増している。仕事と治療の両立相談に関しては、働くうえで整容にかかる外見のケアとしてアピランス関係の情報提供も多い。

（文責：松本 健一）

++ Medical Link Office

1 スタッフ

Medical Link Doctor：松石英城（Director）、甘利香織（医長、兼任、救急科所属）、八板謙一郎（医師、令和4年10月から令和5年3月）
サポート班リーダー：剣企画経営課長（企画班）、武内広報課長（広報班）、江頭地域医療支援部看護師（リクルート班）、松石（派遣班）、甘利（研修班）

2 活動実績

医療の質を高める、身近な医療を支援する、佐賀県に医師を集める、という3つの課題を解決するために、2021年4月Medical Link Officeは発足した。

院内での支援は、病棟へホスピタリスト（病院総合医@日本病院会）を配置することによって、医師の働き方改革の一翼を担う一方、医療安全と職員満足度の向上に寄与し、患者満足の向上を期すことにある。院外への支援は、公的医療機関への医師派遣をシステム化（身近な医療支援チーム@佐賀県健康福祉部医務課）することにある。県の事業に好生館が協力することで、地域の診療体制を支援する。

Medical Link Doctor（3名）の業務

院内支援医：（2022年度は整形外科患者が入院する病棟で週5日勤務、2名で分担）

病棟へ配置されホスピタリストとして働く。

（1）専門診療科入院患者を担当医として併診する、（2）病棟かかりつけ医として患者回診を行う、（3）コメディカルと連携して管理に携わる（医療安全、感染、薬剤、栄養）、（4）専門診療科医不在時に医師オーダ業務を代行する、などの業務に携わった。病棟を4階東以外にも広げた。

地域医療支援医：（2022年度は唐津市民病院きたはたで週2回勤務、3名で分担）

好生館に在籍したまま、公的医療機関へ出向し、プライマリケア医として働く。

週2回の外来診療に従事し、また、好生館の医療を紹介する役割を担った。

3 教育・研究・その他の活動

令和4年度好生館医学会9月例会（2022年9月15日）での紹介

Qlik SenseによるMedical Link Doctorの働き方

改革

第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会（2022年10月29日）での紹介

Re born!! 薬剤人(腎) 共に Potentially Inappropriate Medicationに立ち向かおう

4 今後の課題と展望

Medical Link Officeの広報活動ならびにMedical Link Doctorの採用活動。

（文責：松石 英城）

総合教育研修センター

1 総合教育研修センターの歩みについて

「総合教育研修センター」は、平成28年に新設された部署です。途中で「教育センター」になりましたが、担当分野が多岐にわたるため、現在では「総合教育研修センター」にもどっています。病院支援部門の一翼を担っており、新規採用職員へのオリエンテーション、新人教育、各種の研修および生涯キャリア支援などを担ってきた教育部門を統合し、臨床研修部門、専攻医研修部門、看護師部門（看護師の特定行為研修・キャリア支援を含む）、コメディカル部門および事務部門にも各々、専任の担当者を配置しました。

病院マネジメント推進会の立案と開催、臨床研修医（医学部卒業後の1年次～2年次研修医）の募集と採用および研修修了認定、研修医のリクルートと教育（勉強会やハンズオン・セミナーの開催）、看護師の教育・支援、新規採用職員のアクティブラーニング、必須研修会のeラーニング提供、多職種研修会の開催、各種の心肺蘇生関連講習会やハンズオンセミナーの提供、ICTを活用した病院ホームページ上の情報発信などが、主たる業務です。令和元年度からは看護師の特定行為研修事業が、令和3年度からは看護師のキャリアラダー研修会の提供が、新たに加わりました。

好生館に勤務する職員ひとりひとりが、当館での仕事に自信と誇りを持ち、働き方改革にも対応した勤務体系を維持しつつ、また健康面にも留意しながら、働く喜びを感じていただけるようにサポートしています。

2 活動実績

A. 新規採用職員の採用時研修

令和4年に新規採用された職員118名（臨床研修医含む）に対し、採用時研修会を4月1日～7日に行いました。研修では病院組織の一員であることを自覚し、専門職としての責任と義務を理解することを目標に、病院の理念、就業規則、接遇研修、情報管理、医療安全～感染予防研修に加え、働き方改革の要点を取り入れた研修プログラムを、新規採用職員全員に受講していただきました。なお、従来4月1日に実施していた臨床研修医1年次20名（基幹型11名、たすきがけ9名）に対する佐賀県研修医合同オリエンテーション（佐賀県医師会主催）は、新型コロナウイルス感染症

拡大に対応し、ZoomによるWEBセミナーの形で開催されました。

B. 臨床研修医関連の活動実績

◇臨床研修医の募集および選考

令和5年度採用予定の臨床研修医の募集定員は、前年同様で、佐賀県医療センター好生館臨床研修プログラム（基幹型）12名でした。令和4年7月から8月にかけて、小論文と面接による採用試験が3回にわけて実施され、受験者総数は36名となりました。

JRMP（日本医師臨床研修マッチング協議会）によるマッチングの結果、好生館臨床研修プログラム（基幹型）には12名全員がマッチしました（フルマッチ）。この結果、基幹型では初めて、7年連続してフルマッチを達成することができました。

以下に、過去5年間の臨床研修医の募集・マッチング実績を提示します。

採用予定年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基幹型定員（名）	11	11	12	12	12
受験者数（名）	35	45	34	32	36
マッチ者数（名）	11	11	12	12	12

◇レジデント委員会・臨床研修管理委員会の開催と修了式

第18期（令和3年4月1日～令和5年3月31日）の臨床研修医の評価と更なる臨床研修の充実を図るため、令和5年3月に「レジデント委員会」および院外の指導医を招いた「臨床研修管理委員会」を開催しました。最終調整の結果、基幹型研修医11名の好生館での臨床研修修了が正式に認定されました。

レジデント委員会の開催に先立ち、研修を修了予定の研修医27名を対象に、好生館での研修システムや各診療科・部門などについてアンケート調査（無記名）を行いました。

正直かつ詳細な意見や様々なコメントが寄せられました。問題点が指摘された診療科や一部不満が記載された部署にはその結果を伝え、次年度に向け改善していただくようお願いしました。この場を借りて、ご協力いただいた関係者の方々にお礼を申し上げます。

令和5年3月16日、樗木 等理事長から卒業する

基幹型研修医 11 名に、好生館での臨床研修修了証が授与されました（写真 1 参照）。



写真 1

◇学会・研究会発表、論文投稿

令和 4 年度は、合計 5 演題の学会発表を行いました。研修医担当の専従医（藤田）の専門が救急科であることから、フィードバック機能付き高機能シミュレータを活用した研修医勉強会開催、SimMan と SonoSim を活用した RUSH（ベッドサイド・エコーによるショック患者の系統的評価と治療）コース開催、シミュレータを用いた心肺蘇生スキルの評価と自己修正、リアルタイムエコーガイド下 CV カニューレ挿入演習、研修医が初療を担当した ER 患者の動向と冷や汗症例のデブリーフィングなどについて、発表しました。

臨床研修医への教育・研修面では、上記の各種シミュレータの活用がスキル向上のみならず医療事故防止にも役立つことが示されており、当センターでも集中治療医学会や救急医学会等においてシミュレーション形式の研修会の有用性を報告しました。

また、臨床研修医 4 名の先生方（谷口 弦太郎先生、馬場 楓先生、永島 聖恭先生、井野 輔久先生）には、好生館医学会で発表した演題をブラッシュアップしたものを、佐賀市医師会報の「今月の症例」欄に論文投稿していただきました。

◇レジデント勉強会開催と好生館での工夫

好生館では伝統的に、「レジデント勉強会」が定期開催され、臨床研修医の教育面で大きな貢献をしてきました。本勉強会は、前任者の権藤副館長が多大な労力をかけて運営されてきた歴史があり、現在でも毎月第 2、第 4 木曜日の 18:30～20:00 の時間帯に自己研鑽のために開催されています。本勉強会は 2 本立てになっています。前半では臨床研修医の中から 2 名を指名してスライド発表の経験を積んでもらっています。発表テーマは、自分が ER（救急外来）での判断や対処に苦慮した症例を中心に発表してもらっており、オリジナリティに富んだ発表となっています。特に令和 4 年度は力作揃いでした。

一方、勉強会の後半で提供される館内講師による研修医向けレクチャーについては、少し工夫を加えました。感染症診療に必要な微生物ならびに抗菌薬の基礎知識（感染制御部：福岡部長）、ER の循環器救急のピットフォール～心電図・心エコーを中心に～（循環器内科：吉田部長）、見て動いて学ぶ、骨折や脱臼の初期治療（整形外科：塚本医長）、MR 画像の読影の基礎～画像を読む前に知っておきたい頭部 MR 検査の豆知識と安全管理～（放射線部：三井技師）、こどもの“みかた”（内因系）（小児科：飯田医師、西村部長）などの重要テーマに加え、腹部エコー・経胸壁心エコー検査では、検査科の松本技師・山道技師らに講義とハンズオンセミナーを担当していただきました。

また、研修医のアンケート調査で要望の多かったテーマを参考に、血液内科の吉本部長による大きく変化する造血器腫瘍の治療～AML を中心に～、糖尿病代謝内科の吉村部長による糖尿病 2023～インスリン発見から 100 年が経ちました～、放射線科の安座間医長による放射線血管内治療最前線～IVR～、救急科の松本医長による災害医療概論～最近のトリアージ法、DMAT 活動内容を中心に～、産婦人科の安永部長による産婦人科の救急疾患の診かた等々、更新されたレクチャーも数多く加われました。

さらに、実技中心のレクチャーとして、無菌豚皮を用いた縫合実習&ウエットラボ（形成外科：原田部長と林田医師、整形外科：塚本医長と若手医師）、高機能マネキンとシミュレーション動画を利用したビデオ喉頭鏡下気管挿管やリアルタイムエコーガイド下 CV 挿入（藤田）を提供するなど、“体で覚える”勉強会の回数を増やしています（写真 2A、2B 参照）。



写真 2A



写真 2B

現時点では、研修棟3階のシミュレータ室には実技演習関連のシミュレータが十分には整備されておらず、更新が必要なハードも複数ありますが、好生館が“魅力的な研修病院”であると認識していただけるように、今後は各種のソフトやシミュレータ類を充実させていきたいと考えています。

◇研修医のリクルート活動報告

臨床研修医のリクルートに関しては、佐賀県全体で取り組む必要があることから、佐賀県庁医務課「地域医療体制整備室」と緊密な連携をとりながら、佐賀県下の5つの医師臨床研修施設（佐賀大学医学部附属病院、NHO佐賀病院、NHO嬉野医療センター、唐津赤十字病院、新武雄病院）が協力していく必要があります。将来にわたって佐賀県に医師が一定数残ってくれるよう、佐賀県地域医療対策協議会（地対協）が設立され、令和3年度より佐賀県地対協臨床研修ワーキンググループ会議を定期開催し、将来の佐賀県の医師確保のためのプランニングをしています。さらに、佐賀大学医学部内に「佐賀県医師育成・定着支援センター」が設置され、江村センター長の主導のもと、インターネットを活用して佐賀県から臨床研修に関するリクルート情報を発信しています。

また、病院ごとの研修プログラム説明会関連では、新型コロナウイルス感染症が継続したことからマイナビONLINE等で情報発信してきましたが、令和4年7月10日に3年ぶりに対面形式のレジナビ九州合同研修プログラム説明会に参加することができました。

オンライン形式の研修プログラム説明会では、マイナビRESIDENT臨床研修プログラム説明会（令和4年7月23日）およびレジナビFairオンライン2023 佐賀県限定臨床研修プログラム説明会（令和5年3月12日）に参加しました。いずれの研修プログラム説明会でも医学生とのQ&Aコーナーがあったため、毎回3名前後の現役臨床研修医に参加してもらいました。

上記リクルート活動では、特に現役研修医との質疑応答（総合当直の内容など）が思いのほか好評で、対面式でもオンライン上でも研修医⇄医学生間で活発な意見交換がありました。7月23日のマイナビのWEBセミナーでは、3名の現役研修医（加峯・島内・吉良医師）に対するインタビューを収録した30分のZoom動画集2本を、病院ホームページの「臨床研修Q&Aコーナー」にYouTube版として公開したところ、多くの高評価をいただき、その後の病院

見学者増に繋がりました（写真3A、3B参照）。



写真3A



写真3B

たすきがけ研修に関しては、九州大学協力病院群の初期・後期臨床研修説明会（令和4年6月5日開催）および佐賀大学教育関連病院の臨床研修プログラム説明会（令和4年7月13日開催）に各々参加し、当館のたすきがけ研修プログラムの特徴について対面形式で医学生に説明しました。

インターネットを介した臨床研修病院の情報提供については、2つのウェブ版プログラムを作成しました。1つ目は、PMET（医療研修推進財団）が提供する「臨床研修病院ガイドブックWEB2022」事業に参加し、令和4年4月に採用予定の研修医向けの臨床研修病院情報（好生館版）を入力しました。2つ目は、メディカル・プリンシプル社が提供する「Wyrd 2022：オンライン・レジナビ」に好生館の臨床研修に関する最新情報を提供しました。後者ではインターネットの特徴を生かし、好生館の歴史から高度医療まで様々な情報を提供するために、ER（救急外来）の診療風景、CPCや研修医勉強会、ドクターヘリから撮影した好生館遠景など、新たな写真を更新しアップしました。

◇JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認定施設更新

新・医師臨床研修制度が開始されてから20年が経過しました。多くの臨床研修指定病院が認定されるなかで、平成19年、研修病院を客観的に評価し認定する第三者機関としてJCEP（卒後臨床研修評

価機構）が設立され、令和4年12月までに全国で433の施設がJCEP認定研修施設となりました。

佐賀県ではJCEPにより認定された施設はなく、桐野前理事長からJCEP受審を強く勧められていました。好生館は、新たな研修規定や研修医必携マニュアルの作成、看護師やコメディカルによる研修医評価、研修管理委員会の複数回開催などの要件を揃えたうえでJCEPの訪問審査を受け、令和2年12月1日、JCEPより正式に認定証をいただきました。好生館は佐賀県で唯一のJCEP認定研修施設となります。

令和4年9月、JCEPの更新審査（書面審査）を受け、無事合格することができました。

◇病院見学者への対応

令和4年度の病院見学者数は、計44名でした。病院見学の日程調整およびセッティングは、菊池副主査が行いました。日程決定後は、午前と午後に希望する診療科の見学をしてもらい、昼食後に藤田が研修プログラムを説明、研修医専用室（医局2）やER～屋上ヘリポートの案内などを行いました。

病院見学時の“印象”は、採用試験への応募やマッチング数に深く関連しているため、見学者への対応には十分に留意し、研修医ブログ（研修体験記）集を配布したり、実際に働いている臨床研修医との話し合いの機会をもうけるなどの工夫をしました。

新型コロナウイルス感染拡大のため病院見学を中止せざるを得ない時期が続きましたが、令和3年度からは病院棟に入らない半日コースを設定したり、病院見学時の早朝にPCR検査を実施してから見学に入るようにしたところ（検査費用は病院が負担）、病院見学を希望する医学生が増えつつあります。

◇研修医関連のホームページの充実と研修医ブログ

令和2年10月、好生館のホームページが全面的に刷新されたのに伴い、総合教育研修センターのコンテンツを大幅に修正・追加し、わかりやすいレイアウトとしました。広報室の方々の全面協力を得て、ホームページのトップページ下に『リクルートサイト』を新規追加していただき、好生館での研修を希望する研修医や医学生の皆さんが“見たい情報”に直ぐにアクセスできるよう、階層化の工夫を施しています。また、『募集について』や『研修医最新情報』のフォルダを追加しました。前者では臨床研修医の募集要項や研修医の関連行事等の改訂版を掲載したり、医師の働き方改革に対応した待遇面での新規情報も追加し、医学生が閲覧しやすくしています。

現代は私たちが想像する以上に、医学生や他施設の研修医の皆さんはインターネットを利用して研修病院の情報を見たり、実際にマッチングに参加する際の参考にしていることがわかってきました。従来の口コミ情報に加え、上記のようなホームページの更新をこまめに行い、最新データを提示していく必要があると考えています。

さて、好生館のホームページには研修医の“生の声”を届けるために、「研修医ブログ」のコーナーがあります。これは、他施設の「先輩からのメッセージ」「研修体験記」などに該当するものですが、最もアクセス数が多いサイトのひとつです。平成26年度からは総合教育研修センターが計画的に振り分けをする形で、多くの臨床研修医の皆さんにブログを執筆いただいています。令和元年度は13編、令和2年度は10編、令和3年度は15編、令和4年度には7編の研修医ブログが掲載され、好評を博しています。最近では、いわゆるデジタル・タトゥーの問題もあるため、顔写真を載せないなどの対策も併せて行い、「研修医ブログ」を継続してアップしていきたいと考えています。

◇NPO法人としてのAHA準拠心肺蘇生講習会開催

心肺蘇生講習会関連では、好生館トレーニングサイト（TS）が平成19年2月から、AHA（アメリカ心臓協会）より正式なトレーニングサイトとして認定されたことに伴い、AHA BLSコース（1日間）、AHA PEARSコース（1日間）、AHA ACLSコース（2日間）を定期的に研修棟で開催しています。AHAのBLS／ACLSコース受講は、新・臨床研修制度ではコア・プログラムのひとつとなっているため、好生館でローテート研修する臨床研修医の先生方には積極的にコース受講を促しています。

開催頻度は、AHA BLSコースが平均3回／月、AHA ACLSコースが平均1回／月となっています。令和4年のAHA BLS／ACLSプロバイダーは201名であり、令和5年3月末の時点で受講生の累計は5,894名に達しました。

地道な活動の結果、SNSなどで好生館TSのAHA講習会は充実しているとの情報が広まり、佐賀県内だけでなく近隣の県（特に長崎県や福岡県）からも受講生の応募がありました。AHAコースは、視覚に訴えるDVD教材を活用しながら体を動かして“学ぶ楽しさ”を実感することができるうえ、正式なプロバイダーカードが発行されるため、受講生の満足度は高いようです。

好生館TSは平成27年4月、佐賀県庁よりNPO

法人として正式に認証され、その活動拠点を総合教育研修センターに移設しました。今後はより透明性を高めたコース運営を行うとともに、NPO法人の定款に記載しているように、研修医教育や災害医療にもウイングを広げ、また学校の養護教員、消防学校の生徒、一般市民（特に保育園の職員向け）への啓蒙活動などのミッションも実践していきたいと計画しています。

C. 看護職キャリア・ラダー関連の活動実績

看護職の教育・研修に関しては、看護部教育運営委員会と連携し、さまざまな看護職員研修の企画・運営・評価を行っています。令和3年度からは、「好生館看護職 キャリア・ラダー」を“導入”し、令和4年度からはキャリア・ラダーの“定着”に取り組んでいます。

当館の看護職は全員、レベルⅡ以上を目指しています。令和4年度はキャリア・ラダーを基盤に67項目の看護職員研修を行い、看護職は延べ2,393名、看護補助者は延べ122名が研修を受講しました。また、令和4年度のキャリア・ラダー認定状況は、レベルⅠ～Ⅱにおいて認定審査を行い、合計105名の看護職が認定されました。看護管理の視点が必要となるレベルⅣ・Ⅴは、令和6年度から認定審査を行う予定です。

D. 看護師の特定行為研修の活動実績

当館では令和元年度から看護師の特定行為研修を開始し、令和3年度より「術中麻酔領域」と「救急領域」のパッケージ研修に移行しました。本研修は、働きながら受講できるよう、講義はeラーニングを活用した自己学習とし、演習などの集合研修は2週間に1回行っています。集合研修では、経験豊富な医師や認定看護師だけでなく、現場の特定行為研修修了者も指導者として参加し、知識と実践を繋げやすい教育体制を整えています。

令和5年3月23日に第4期生の研修修了式を行いました（写真4参照）。

現在19名の修了生がクリティカル領域ならびに一般病棟で活躍しています。現在は第5期生4名が特定行為の資格取得に向けて、研修に取り組んでいます。

今後は、さらに特定行為を病棟に広げていくために、外科関連区分の研修にも取り組んでいく予定としています。



写真4

E. 医療支援部門の教育活動実績

当館の医師・看護師を除くメディカルスタッフ、いわゆるコメディカルについての教育・研修は、ほとんど各部門ごとに行われており、部門間で情報共有を試みたり、部門を越えた教育上の協働活動はなされていないのが現状でした。

そこで、多職種が協力して患者中心のチーム医療を推進しようという観点から、平成28年より3回／年の頻度で「多職種連携セミナー」を開催してきました。医師・看護師と医療支援部門（事務部、薬剤部、栄養管理部、検査部、放射線部、リハビリテーションセンター、MEセンター等）および教育センターが連携し、症例検討会を中心としたセミナーを開催しました。しかし、本セミナーでは対面式のディスカッションが中心となる形式のため、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大した令和2年度以降は、開催を見送らざるを得ませんでした。

令和4年度は、草葉薬剤部長を中心にプランを詰めていただき、感染対策を徹底したうえで対面式から発表形式に開催スタイルを変更し、3年ぶりに多職種連携セミナーを開催することができました。

F. 各種の学生実習の把握

これまで、医学生、薬学部生、コメディカルの学生実習については、各部門でそれぞれが把握している状況でした。令和4年度は看護学生に加え、各部門から学生実習計画の情報を得て、好生館で実習する学生の全体的な把握を行いました。

実績として、医学生は佐賀大学・久留米大学・自治医科大学などから年に延べ2,500名・日以上 of 学生を受け入れていましたが、これも新型コロナウイルス感染症拡大のため、受け入れを一部もしくは全面的に制限せざるを得ませんでした。

G. 病院マネジメント推進会について

病院マネジメント推進会は、総合教育研修セン

ターが中心となって企画・立案し、毎月第1木曜日の夕方に好生館職員に向けて提供している、歴史のある研修会です。

病院マネジメント推進会の目的は、「病院の全職員が病院の運営に関する情報や問題意識を共有し、安全で効率的かつ質の高い医療を提供し、全職員が健全な病院経営への参加意識を高めていくこと」にあります。この目的を達成するために、毎月、核となるテーマを決めて、計画的に開催しています。

特に、急性期病院として「医療安全管理研修会」と「院内感染予防対策研修会」および「保険診療研修会」は、各々、年に最低2回は全職員が受講することが義務付けられている必須のテーマであるため、特に力を入れて企画しています。また最近では、「災害対策研修会」や「情報セキュリティ研修会」なども大部分の職員が受講すべき研修会とされているため、職員の皆さんの負担を増やさないう、開催月の分散化を図っています。

構成メンバーとしては、教育センターの他に、看護部、医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、災害対策委員会、NST小委員会、検査部、薬剤部、放射線部、医療コミュニケーション推進委員会、医療情報部、事務部等があり、各部門から1名ずつ担当者を選出し、毎年テーマを決めて運営しています。

病院業務では、時間外診療や救急患者への対応また夜間勤務などシフト制もあるため、上記の時間帯に受講できない職員も数多くいらっしゃいます。このため、重要なテーマの講演会はビデオ録画し、後日「DVD研修」や「e-ラーニング」にて追加講習が受けられるように配慮しています。

H. 館外関係者への総合的な実習・研修サポート および病院見学案内

臨床研修医の活動実績と一部重複しますが、ここ数年、アーリー・エクスポージャー（早期体験学習）の観点から、中学校や専門学校など様々なルートから様々な学生さんの病院見学依頼が増えつつあります。

また、令和元年度から佐賀大学医学部の臨床実習プログラムの改定があり、毎年4月～7月に受け入れてきた実習期間が、10月下旬から翌年の9月上旬まで大幅に拡大されました。医学部5年生～6年生が4週間ずつ（2週間ずつ2クール）、好生館の各診療科に臨床実習のため回ってくるため、総合教育研修センターでは毎年7月上旬に佐賀大学医学部附属病院に赴き、上記の臨床実習中の要点について説明しています。さらに自治医科大学医学生の中核

病院実習（毎年5月と8月）も担当しています。

上記の見学・実習については、総合教育研修センターが窓口となり、各人の希望を取り入れつつ各診療科や部門に依頼して病院での見学実習をサポートしています。令和4年度は一部で見学や実習の制限がかかりましたが、見学後のアンケートでは「職場の雰囲気明るく、館内の職員の人たちが笑顔で挨拶してくれて、好生館が好きになった」等のコメントが数多く寄せられました。この場を借りて、ご協力いただいた関係者の方々に深謝いたします。

（文責：菊池 智美、渡邊 さおり、岡野 奈々、
築地 秀人、長友 篤志、中川 香澄、
橋口 佳奈子、田久保 衣友未、野中 貴子、
金原 直美、草葉 一友、甘利 香織、
藤田 尚宏、内藤 光三）

国際交流室

国際交流室は、好生館が国際的に開かれた病院であるための活動を行うことを目的として、2015年7月より活動を開始した。GO, NGO, NPOなどの国際派遣医療活動を支援する種々の団体で活動経験を有するチームで構成されている。職員の海外研修や国際医療支援活動に加え、当館を受診される外国人患者のサポート、他国の研修生や見学者の受け入れ体制の調整などに関わっている。現段階では国際交流室として人員的な問題で活発な活動を行えていないが、2019年7月に外国人受け入れ医療機関（JMIP）として認定を受け、2022年に1回目の認定更新が済んだところである。今後とも好生館が国際的に開かれた病院であることを目指し地道な活動を継続していく。

（文責：内藤 光三）

総合臨床研究所

1 臨床試験推進部

①スタッフ

大座 紀子、草葉 一友、宮崎 敦、溝口 佳代、
三井 浩子、小島 友理子、只野 茉莉子、
三浦 裕美子

②活動実績

- (1) 治験審査委員会、倫理審査委員会、利益相反審査委員会における業務
- (2) 治験のリモート体制の強化、必須文書の電子化に関する体制整備
- (3) スタッフ教育、勉強会の開催
- (4) 治験・臨床研究・特定臨床研究に係る規則・要綱・手順書・申請様式の改正
- (5) 特定臨床研究事務局業務
- (6) 日本医師会治験促進センター大規模治験ネットワークに関する業務（令和5年3月31日廃止）

③今後の課題と展望

- (1) プロセス管理の充実
- (2) 依頼者に選定される実施体制整備とアピール
- (3) 医師主導治験を受け入れ可能とする体制整備
- (4) 臨床研究CRCの教育・人材育成

（文責：大座 紀子）

2 疾患病態研究部

①スタッフ

泉 秀樹

②活動実績

研究部が立ち上がって8年目となる2022年度において、泉部長は、オートファジーに基づくがん幹細胞の非対称分裂の研究に従事し、その成果を論文として発表した。

③教育・研究・その他の活動

泉部長は、論文の成果を第32回日本サイトメトリ学会学術集会で発表し、学術奨励賞を受賞した。

④今後の課題と展望

ようやく毎年、論文を発表できる体制が整ったので、佐賀大学との連携大学院として、研究・教育指導ができればと考えている。さらに他大学との共同研究を推進し、将来的には、好生館臨床各科との共同研究ができればと考えている。

（文責：泉 秀樹）

3 疾患ゲノム研究部

①スタッフ

安波 道郎

②活動実績

- (1) がんゲノム医療関係：がんゲノム医療連携病院としてがん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）を実施した。（年度提出件数：34、うち検体不良のため不成立件数：1）
- (2) がん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）の二次的所見として検出された遺伝性腫瘍原因遺伝子の変異が生殖系列変異であるかの確認を6例について実施して、うち2例については生殖系列、残りの4例は腫瘍組織に生じた体細胞変異であることが判明した。
- (3) 家族性地中海熱の原因遺伝子であるMEFV遺伝子の塩基配列解析を行い、診断を確定した。

③その他の活動

長崎大学熱帯医学研究所・臨床感染症学分野（有吉紅也教授）との共同研究として本邦肺炎の臨床疫学研究、およびベトナムの小児コホート研究など、アジア・アフリカの健康問題に関する研究に参画した。

④今後の課題と展望

- (1) 遺伝性疾患の診療に不可欠である遺伝カウンセリングを行う体制を整備する。
- (2) がんゲノム医療連携病院としてがんゲノム医療を継続し、遺伝性腫瘍原因遺伝子変異等の二次的所見に的確に対応する。

（文責：安波 道郎）

4 疾患疫学研究部

①スタッフ

光石 はつみ、宮地 宏昭、原田 智可、
吉武 真由子

②活動実績

当館で診断、治療および情報収集した諸疾患の患者データベースを構築・整理し、疫学的手法を用いて研究することで疾患の原因究明、予防、治療法を解明していくことを目的としている。現在は、がん登録部門のみの稼働状況である。

また、佐賀県から受託している「佐賀県がん登

録事業」について、佐賀県がん登録室として業務を行った。

- (1) 院内がん登録業務（収集分析したデータは本年報内で別途報告）
- (2) 全国・地域がん登録業務（佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』）

③今後の課題と展望

蓄積された全国・地域がん登録データ等を用い、国際共同研究へ参加し、世界のがん対策への貢献と日本のがん登録データの精度向上につなげたい。

（文責：光石 はつみ）

③その他の活動

急性血便におけるコホート研究（CODE BLUE-J 試験）、大阪大学大学院医学研究科情報統合医学講座医学統計学（服部聡教授）との共同研究としてメタアナリシスの方法論の研究に参画した。

④今後の課題と展望

- (1) 医学研究者とともに共同研究に参画し、質の高い医学研究を実施する。
- (2) 医療統計ゼミナールを通じて、統計学の基礎的な教育を行う。
- (3) 他施設の研究者とも積極的に共同研究を実施し、研究成果を発信する。

（文責：貞嶋 栄司）

5 臨床統計支援部

①スタッフ

貞嶋 栄司

②活動実績

- (1) 臨床研究の支援（統計解析に関する相談34件、統計解析依頼30件）
- (2) 医療統計ゼミナールの開催（全9回：基礎編5回、実践編4回）
- (3) 医療統計コンサルティングの受託（外部施設からの受託4件、論文掲載4編）

・2022年度 外部資金研究課題・研究助成

研究事業名・研究助成等			課題名・助成内容
科学研究費助成事業	科学研究費補助金	基盤研究(B) (一般)	石灰化病変拡張時に冠動脈血管に生じる三次元ひずみ分布の実験的計測法開発の試み(分担：挽地)
			寝たきり度を用いた院内転倒予測モデルの多様な医療機関での検証と実用化に関する研究(分担：甘利)
	学術研究助成基金助成金	基盤研究(C) (一般)	COPD患者における骨格筋-腸内細菌叢連関と新規リハビリテーション介入手法の開発(分担：貞松)
		若手研究	問題飲酒者に対するオンライン版飲酒日記の効果検証と新たなプログラムの開発(角南)
奨学寄附金	中外製薬		胃癌術後胃機能喪失による障害を克服するための研究(消化器外科)
	大鵬薬品工業		IOTを利用した胃癌術後の機能障害を克服するための研究(田中)
	科研製薬		消化器癌術後障害克服(田中)
	旭化成		「Osteoporosis liaison team(OLT)介入の効果検証/OLT非介入と比較して」への研究助成
研究助成	ゴールドリボン・ネットワーク		エクソソームによる新たな神経芽腫分化誘導療法の開発(泉)
研究受託	統計解析		外部コンサルティング

外部資金合計 ￥2,685,000

・2022年度 治験課題名一覧

【新規1件】

リポ蛋白(a)高値のアテローム動脈硬化性心血管疾患患者における主要な心血管イベントに対するolpasiranの影響を評価する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照、多施設共同試験

【継続20件】

切除不能なステージⅣ尿路上皮癌患者を対象とする一次療法としてのMEDI4736単剤療法及びtremelimumabとの併用療法を標準治療の化学療法と比較する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検比較対照試験
Combined Phase 3, Double-blind, Randomized, Placebo-Controlled Studies Evaluating the Efficacy and Safety of Filgotinib in the Induction and Maintenance of Remission in Subjects with Moderately to Severely Active Crohn's Disease 中等症から重症の活動性クローン病患者を対象に寛解導入療法及び維持療法におけるFilgotinibの有効性及び安全性を評価する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、統合第3相試験
A Long-Term Extension Study to Evaluate the Safety of Filgotinib in Subjects with Crohn's Disease クローン病患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験
A Long-Term Extension Study to Evaluate the Safety of Filgotinib in Subjects with Ulcerative Colitis 潰瘍性大腸炎患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験
進行肝細胞癌患者に対する一次治療におけるデュルバルマムとトレメリマブの第Ⅲ相無作為化非盲検多施設共同試験
AJM300の活動期潰瘍性大腸炎患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験(2)
中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者を対象としてmirikizumabの長期有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検継続投与第Ⅲ相試験
進行性肝細胞癌患者に対する一次治療としてのレンパチニブ(E7080/MK-7902)とベムプロリズマブ(MK-3475)の併用療法の安全性及び有効性をレンパチニブ単剤療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験
外科的切除術又は局所焼灼療法後に画像評価により完全奏効を示した肝細胞癌患者を対象に術後補助療法としてのMK-3475の安全性及び有効性をプラセボと比較する二重盲検第Ⅲ相試験
中等症から重症の活動性クローン病患者を対象としたMirikizumabの有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ及び実薬対照、Treat-Through試験
An Open-Label, Multi-Center, Global Study to Evaluate Long Term Safety and Efficacy in Patients Who are Receiving or Who Previously Received Durvalumab in Other Protocols (WAVE) 他の治験でデュルバルマブの投与を受けている又は投与歴のある患者を対象に長期の安全性及び有効性を評価する、非盲検、多施設、国際共同試験(WAVE)
重症の好酸球性喘息の小児患者を対象としたベンラリズマブ皮下投与時の薬物動態、薬力学、及び長期安全性を評価する非盲検臨床試験
根治不能／非転移性の肝細胞癌患者を対象にレンパチニブ(E7080/MK-7902)、ベムプロリズマブ(MK-3475)及び肝動脈化学塞栓療法(TACE)の併用療法の有効性及び安全性を TACE 単剤療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験(LEAP-012)
進行肝細胞癌患者の1次治療としてニボルマブとイビリムマブの併用療法をソラフェニブ又はレンパチニブと比較するランダム化多施設共同第Ⅲ相試験
KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験
せん妄の発症リスクが高い日本人被験者を対象に、せん妄の発症抑制を目的としてMK-4305(スボレキサント)を投与した際の有効性及び安全性を評価する多施設共同、無作為化、第Ⅲ相、プラセボ対照、二重盲検比較試験
非糖尿病性慢性腎臓病患者における腎疾患の進行に関して、標準治療に上乘せしたfinerenoneの有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較、第Ⅲ相試験
左室駆出率の保たれた心不全(HFpEF)患者を対象として、心血管死又は心不全悪化の減少に対するダバグリフロジンの効果を評価する国際共同二重盲検無作為化プラセボ対照第Ⅲ相試験 DELIVER 試験－左室駆出率が保たれた心不全患者におけるダバグリフロジンの生存状況に対する改善効果の検討－
心血管リスクが高く低比重リポ蛋白コレステロール(LDL-C)高値の日本人患者に、異なる用量のinclisiranを皮下注射したときの効果を評価する、プラセボ対照、二重盲検、ランダム化試験(ORION-15)
閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行患者を対象としたNS-304のプラセボ対照二重盲検比較試験(後期第Ⅱ相)

・支援中の臨床研究

臨床腫瘍科：10試験、消化器外科：4試験、乳腺外科：3試験、泌尿器科：1試験

事務部

1 総括

事務部は、部長、副部長、理事室、総務課、財務課、施設課、医事課、企画経営課、広報課、好生館看護学院事務室の体制で業務を推進した。

令和4年度においては、第4期中期目標期間中の1年目に当たる令和4年度計画を着実に実行に移すために、法人組織全体の意思決定機関である理事会、統括責任者会議、また病院運営の意思決定会議である病院運営会議、経営戦略会議等や医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、防火・防災管理委員会、臨床研修管理委員会、各中央診療部の委員会等を所掌しながら理事長、館長、副館長の指導の下、法人運営、病院運営の基礎を担うべく活動した。

2 令和4年度の特記事項

1) 組織改正について

- ①令和4年4月1日付で、以下の改正を行った。
 - ・好生館看護学院の組織について、業務推進室を廃止した。
 - ・「ライフサイエンス研究所」の組織のうち、「免疫学研究部」の名称を「疾患疫学研究部」へ、「疾患遺伝子研究部」の名称を「疾患病態研究部」へ変更し、新たに「クリニカルリサーチサポートセンター」を新設した。
- ②令和4年6月1日付で、以下の改正を行った。
 - ・「ライフサイエンス研究所」の名称を「総合臨床研究所」に変更した。
 - ・「ライフサイエンス研究所」の組織のうち「疾患ゲノムセンター」の名称を「疾患ゲノム研究所」へ「クリニカルリサーチサポートセンター」の名称を「臨床統計支援部」へ変更した。

2) 好生館災害訓練の実施

- ①令和4年10月15日(土) 8時30分～12時30分、前年度に引き続き2回目の本格的な災害訓練を実施した。

具体的には、多目的ホールに対策本部（本部長：館長）を設置し、ER、正面玄関ホール周辺を会場に、職員駐車場に模擬災害現場とした。プレイヤーは病院全部署から参加し、コントローラーに災害医療対策準備室メンバー、好生館DMAT隊員、外部からの応援DMAT隊員、また模擬患者役で好生館看

護学院学生39名、佐賀広域消防局から救急隊2隊、佐賀県医務課1名等の参加を得た。

3) 新型コロナウイルス感染症への対応

①新型コロナウイルス感染症患者の受入れ

新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も終息の気配は見られず、本館は、県内唯一の第一種感染症指定医療機関としてその役割を果たした。具体的には、佐賀県のプロジェクトMで本館にフェーズ毎に課せられた病床（フェーズ1：14床、フェーズ2：29床、フェーズ3：51床、フェーズ4：84床）を確保して対応した。

本館は、第6波（令和3年12月26日～令和4年6月27日）において、延べ513人、第7波（令和4年6月28日～令和4年9月30日）において、延べ461人を受け入れた。

②新型コロナウイルスワクチン集団接種への協力

佐賀県が実施した第3回目接種と第4回目接種について、令和4年7月17日（日）～9月16日（金）の計15日間、本館多目的ホールを会場として、医師、薬剤師、看護師、事務職員等を動員して、延べ4,767人に接種した。

③好生館における新型コロナウイルスとの闘いの記録集「好生館とCOVID-19の990日」の刊行

好生館における新型コロナウイルスとの闘いの記録集を発刊すべく、新型コロナウイルス感染症に関わった感染制御部を中心とした全ての部署に闘いの記録の原稿依頼を行い、全国の発生状況、佐賀県の医療提供体制、好生館の受入れ状況、診療体制、救急体制、看護体制、ワクチン接種、院内感染対策、医療機器整備、現場職員の闘いの日々の想い等について、110頁に渡る記録集を刊行した。

その記録集は、県内外の医療機関、医師会、関連大学医学部、自治体、報道機関等に計487冊を寄贈し、さらに好生館職員にも配布した。

3 収支の状況

(単位：百万円)

科 目	R4決算	R3決算	増減額
経常収益(A)	20,383	19,106	1,277
医業収益	17,055	15,432	1,623
看護師等養成所収益	60	55	5
運営費負担金	1,382	1,487	▲ 105
その他	1,886	2,132	▲ 246
経常費用(B)	19,782	18,562	1,220
医業費用	18,263	17,163	1,100
看護師養成所費用	225	193	32
一般管理費	938	907	31
財務費用	356	299	57
経常利益(A-B)	601	544	57
臨時損益(C)	1	51	▲50
当期純利益 (A-B+C)	602	595	7

1 経常収益の主な増減要因

(全体で12.7億円の増)

- (1) 入院収益 15.6億円の増
- (2) 外来収益 3.3億円の減
- (3) 補助金収益 1.1億円の減

2 経常費用の主な増減要因 (全体で12.2億円の増)

- (1) 人件費に関するもの 3.1億円の増
- (2) 材料費に関するもの 5.5億円の増
- (3) 委託費に関するもの 0.3億円の増
- (4) その他経費に関するもの 1.4億円の増

4 患者数

区 分	R4年度(A)	R3年度(B)	増減(A-B)
入院患者数	141,695人	134,128人	7,567人
外来患者数	173,296人	169,651人	3,645人

(文責：原 博文)

総務課

1 組織の見直し等

令和4年度は、6課・2室体制を維持し体制変更は実施しなかった。

2 職員数

令和4年度の職員数は、前年度と比較して8名の増員となった。主な要因は、広域消防局から救急救命士（下表の「医療技術職」に計上）の派遣を依頼したこと、栄養管理部の給食調理業務一部直営化に伴う調理員（臨時職員、下表の「医療技術職」に計上）の増となっている。

職種別では、医師7名増（正規職員1増、期限付職員1減、臨時職員7増）、救急救命士3名増（正規職員）、医師事務作業補助者3名増（臨時職員、下表の「事務その他」に計上）、調理員5名増となっている。

一方、職員数が減少している職種は、看護師7名減（正規職員8減、期限付職員1減、臨時職員2増）、医療ソーシャルワーカー3名減（正規職員、下表の「事務その他」に計上）となっている。

職員数の状況（R5.3.31現在）

区 分	役員			一般職員			期限付職員			臨時職員			再雇用職員			合計		
	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減
医 師	3	3	0	108	109	1	4	3	△1	78	85	7	0	0	0	193	200	7
看 護 師	2	1	△1	557	549	△8	12	12	0	6	8	2	8	8	0	585	578	△7
医療技術職	0	0	0	174	177	3	10	11	1	7	12	5	0	0	0	191	200	9
事務その他	1	1	0	104	101	△3	26	28	2	162	162	0	2	2	0	295	294	△1
合計	6	5	△1	943	936	△7	52	54	2	253	267	14	10	10	0	1,264	1,272	8

3 職員採用

以下のとおり令和4年度中途採用試験を6回、令和5年度に向けた職員採用試験を11回実施した。

令和4年度中途採用試験

区 分	実 施 日	応募人数	合格者数
栄養士・調理師	R 5. 1. 6	2名	1名
	R 5. 3.22	2名	1名
調理師	R 4.10.26	1名	1名
作業療法士	R 4. 5. 2	1名	0名
事務職員（医療ソーシャルワーカー）	R 5. 2.20	2名	1名
事務職員（医療情報系専従職員）	R 5. 3.28	2名	0名

令和5年度採用試験

区 分	実 施 日	応募人数	合格者数
看護師・助産師	R 4. 6.25	12名	12名
	R 4. 7. 9	41名	21名
薬剤師	R 4.12.19	1名	0名
管理栄養士	R 4.10. 6	10名	1名
栄養士・調理師	R 5. 1. 6	2名	2名
調理師	R 4. 9.28	3名	3名
	R 4.12. 1	1名	1名
作業療法士	R 4. 7.11	2名	1名
臨床検査技師	R 4. 9. 8	7名	1名
臨床工学技士	R 4. 9. 8	4名	1名
事務職員	R 4. 7.16	22名	3名
	R 4. 7.30		

4 職員の給与等

給与表毎の令和5年4月1日現在の平均年齢及び令和4年度職員一人当たり年間人件費は、以下のとおりであった。昨年度と比較すると、全体的に新型コロナウイルス感染症に係る手当や時間外が増加している。また、医療職給料表（三）では、国の俸給表準拠に伴う措置や特別処遇改善手当が創設されたことにより、増加している。

給料表	平均年齢	平均人件費
特定職給料表	63歳	24,909,481円
医療職給料表（一）	46歳	20,927,654円
医療職給料表（二）	35歳	6,313,691円
医療職給料表（三）	36歳	6,658,278円
研究職給料表	50歳	8,702,943円
再雇用看護職給料表	61歳	4,360,659円
再雇用事務職給料表	62歳	7,268,856円
技能労務職給料表	33歳	5,625,616円
事務職給料表	39歳	5,717,643円
特定期限付給料表	62歳	10,421,838円

5 職員の健康管理

定期健康診断及び人間ドックの対象者は1,289名であり、受診者は定期健康診断（令和4年4月15日、18日、21日、22日、27日実施）996名、人間ドック224名、計1,220名（受診率94.64%）だった。

また、院内感染防止等のためHBs血液検査、結核菌検査、麻疹抗体検査、流行性耳下腺炎検査、水痘検査及びインフルエンザ予防接種を実施した。

さらに、メンタルヘルス対策及び過重労働対策等のために行っているストレスチェックは、7月3日～14日に実施し、対象者1,198名のうち1,196名（99.83%）が回答した。

（文責：堤 由起子）

財務課

1 スタッフ

財務課は、財務係、契約係、及び研究係の3係で構成されており、課長1名、課長補佐2名、係長1名及び課員13名の計17名（欠員1名）が配置されている。

2 活動実績

財務係では、精度の高い日時業務を、正確な月次決算及び年度決算の作成へとつなげることができた。また、病院運営会議において月次の収支状況（年度の収支予測を含む）を各部門長へ報告することにより、病院の経営状況を周知することで職員の経営意識の向上を図った。未収債権管理については、関連部署との定期的な打ち合わせを実施し、他部署との連携強化を図ることで、未収金の発生防止に努めた。また、残念ながら発生してしまった未収金については、文書督促等を実施するとともに、回収困難と判断した場合には回収業務を委託するなど未収金回収に注力した。

契約係では、医療機器、医薬品、診療材料、消耗品及び給食材料等の購入契約業務のほか、治験に係る契約業務を実施するとともに、ベンチマーク等による価格交渉を行い購入費用の削減に努めた。また、契約の適性を期するために設置された契約監視委員会での意見を真摯に受け止めることにより、適正に契約事務を進めることが出来た。

研究係では、研究費不正使用防止部門会議及び研究不正行為防止部門会議を開催し、研究費の適正な使用及び研究の適正な実施に努めた。

3 今後の課題と展望

今後は、係内及び課内の連携を更に強化するとともに、他課（他部門）との連携を強化することにより、精度の高い予算作成と予算の適正な執行管理を行うこととする。

決算業務については、日々正確な業務を遂行することにより、正確な月次の決算へと進め、正確な年度決算を作成することができるよう業務を遂行する。

また、月次決算をもとに精度の高い年度の収支予測を行い、病院経営の戦略を検討する資料の提供を行うこととする。

係毎の課題と展望であるが、財務係は、係員個々

の企業会計制度についての更なるスキルアップ、契約係は、適正な契約事務の遂行と費用節減対策の強化、研究係は、好生館の適正な研究活動を推進するための運営及び管理責任体制を確立することを目標とする。

（文責：緒方 貢）

医 事 課

1 はじめに

医事課は、医事係・入院係・外来係の3係から令和4年12月より地域医療連携センター係が加わり、4係で構成されている。課長1名、係長3名、副主査7名、課員15名の26名が配置されている。4月より入院係主事として山口真由が就任し、藤原慧三郎・吉本剛大が4月に、荒木椋太・平石有佳里・辻みなみは10月に副主査に昇任した。

令和4年度診療報酬改定もあり、新規施設基準36件（急性期充実体制加算、感染対策向上加算1（指導強化加算）、地域連携分娩管理加算、報告書管理体制加算、二次性骨折予防継続管理料1・3、外来腫瘍化学療法診療料1（連携充実加算）、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術、腹腔鏡下リンパ節郭清術（側方）、内視鏡の逆流防止粘膜切除術、腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、内視鏡的小腸ポリープ切除術、周術期栄養管理実施加算、静脈圧処置（慢性静脈不全に対するもの）、外来腫瘍化学療法加算1、血漿交換療法 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法、リンパ浮腫複合的治療料、緑内障手術 濾過胞再建術（needle法）、救命救急入院料3「注8」に掲げる早期離床・リハビリテーション加算、小児入院医療管理料4「注7」療育支援体制加算、腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）、腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術、単線維筋電図、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、急性期看護補助体制加算 告示注4看護補助体制充実加算、下肢創傷処置管理料、アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料、看護職員処遇改善評価料60、腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）、精密触覚機能検査、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、緊急整復固定加算及び緊急挿入加算、腎代替療法指導管理料、センチネルリンパ節加算）を取得した。

また、平成31年4月から稼動している施設基準管理システムは令和4年度においても問題なく稼動した。

令和2年4月から継続して、新型コロナウイルスの間診・オンライン面会・保健所からの患者情報のカルテ入力・HER-SYS登録など病院運営に貢献した。

2 診療実績

(1) 実診療額

【入院】

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実診療額	11,609,386千円	10,241,884千円	11,411,472千円	12,976,732千円
一人当たり診療額	82,983円	83,820円	85,079円	91,582円

【外来】

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実診療額	3,895,514千円	3,664,738千円	3,925,862千円	4,023,836千円
一人当たり診療額	21,853円	23,312円	23,141円	23,219円

令和4年度の実診療額は入院129億円（対前年比15億7千万円の増）、外来40億2千万円（対前年比9千800万円の増）となっており、入院、外来合わせて16億6千万の増となった。

主な要因としては、診療報酬改定に伴うもので外来診療は化学療法やPCR検査等、入院診療は4月より急性期充実体制加算の取得、また抗癌剤やコロナ治療薬使用であった。※令和4年度佐賀県新型コロナウイルス感染症対応医療提供体制強化緊急補助金（病症確保支援事業）での収入は684,348千円であった。

(2) 査定減・精度管理

査定減については、入院が令和元年度6,556千点（0.59%）、令和2年度4,537千点（0.47%）、令和3年度4,702千点（0.42%）、令和4年度4,881千点（0.39%）であり、令和3年度に比べて179千点増（0.03%減）している。

外来は、令和元年度1,335千点（0.36%）、令和2年度1,282千点（0.36%）、令和3年度1,301千点（0.34%）、令和4年度1,357千点（0.34%）であり、令和3年度に比べて56千点増（増減なし）となっている。

平成23年5月よりレセプトチェックシステム“べてらん君”の病名表示及びコメント表示設定の変更などを行っていたが、令和3年度9月診療分より社会保険支払基金においてAIによるレセプトチェッ

クが開始され、当館でもAIレセプトチェックシステムの導入済み医療機関である九州大学病院に令和5年3月訪問した。入院は、「救命救急入院料や救急医療管理加算」などが多く査定された。外来は、「CT/MRI、各検査項目の連月施行」などが多く査定され、主治医との連携を図りながら、各個人のスキルアップを図りチェック体制を強化していきたい。

また、令和4年度には、外部委託会社による手術精度調査（入院）を行い、請求漏れ対策及び職員研修を実施した。

（3）人間ドック

人間ドックについては、令和元年度1,269件、令和2年度1,042件、令和3年度1,153件、令和4年度1,235件で対前年度82件増となっている。

また、平成24年度より人間ドック受診者へ食事提供を実施しているが、対応・サービス面においても更に充実を図り、受診者の増加につなげていきたい。

3 今後の目標

入院については、平成26年4月から完全職員化となったが、診療報酬請求のチェック体制を強化し、請求もれや査定率の減少、患者対応のスキルアップを図りたい。

外来については、委託契約であるが、業務能力の向上・サービス強化などを取り組み、全体の管理や外来未収に力をいれ、さらなる飛躍を図っていく。

働き方改革として、AIの導入・業務のRPA化による業務負担軽減を検討課題としていきたい。

（文責：今池 彰）

企画経営課

1 スタッフ

課長：劔 彰彦、副主査：近藤 徹弥、副主査：川上 麻耶、課員：梶原 由美子の4名で構成されている。

2 活動実績

①経営戦略策定等業務

隔週火曜日に開催される経営戦略会議の運営および経営改善に向けた提案を実施した。また、毎月第四火曜日に開催される病院運営会議へのトピックス提供や会議運営のための各種コーディネートを実施した。さらに、各診療科・部門と理事長・館長・事務部長ヒアリングの計画作成と実施支援を行った。

②年度計画案の策定

令和5年度計画案を策定し、事務部内で検討の後、統括責任者会議、理事会を経て、令和5年3月佐賀県に報告された。

③年度実績の自己評価案の策定

令和3年度計画の実績について自己評価案を取り纏め、評価委員会へ佐賀県を通じて提出した。また、令和4年度計画の進捗状況は、各部門の月次状況報告を管理し、遅れがみられる部門には対策案などの提示等による是正依頼および支援を行った。

④ベンチマークシステムの活用

DPC特定病院群へ昇格するためにベンチマークシステム等を活用し、その要件である「診療密度」、「外保連指数」「手術件数」等のモニタリングを継続した。また改善が必要な項目については、関連部署へのデータ提供等による是正依頼および支援を行った。

⑤QI (Quality Indicator) プロジェクト等

日本病院会、全国自治体病院協議会、CQI研究会が実施しているQIプロジェクト、国立大学病院管理会計システム (HOMAS 2) に引き続き参加した。また、好生館のQI窓口として、データ収集・登録業務、及び、分析結果のフィードバックを行った。

⑥経営改善に関する各種業務

経営及び業務改善に向けて、以下のような業務を実施した。

・【診療報酬改定】急性期充実体制加算対策

- ・安定的な紹介患者確保対策
- ・DPC特定病院群に向けた医療の質向上
- ・DPC特定病院群対策（外保連指数）
- ・働き方改革、DX
- ・化学療法入院
- ・公立病院経営強化プラン
- ・RPA導入検討
- ・各診療科実績分析
- ・病院機能評価スケジュール
- ・全国独立行政法人調査データ分析
- ・Afterコロナに向けた分析
- ・救急搬送分析
- ・脳卒中センター分析

3 教育・研究・その他の活動

下記学会に参加した。

- ・劔 第24回日本医療マネジメント学会学術総会. 7.8-9. 神戸市
- ・川上、劔 第60回全国自治体病院学会. 11.10-11. 那覇市

4 今後の課題と展望

①経営改革

安定的な健全経営体質を作るために、病院経営コンサルタントの効果的な活用、Afterコロナ健全経営に向けた戦略策定を予定している。

②継続的な質改善

医療・経営の質改善に向けて、令和6年7月受審予定の病院機能評価に向けた準備を開始する。

③経営マインドを持った事務職員の育成

病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成を行う。

(文責：劔 彰彦)



施設課

令和４年度の施設の修繕、及び、維持保全の状況は以下のとおりである。

1 令和４年度的主要工事について

病棟階照明LED化工事	68,200,000 円
無停電電源装置蓄電池更新工事	29,700,000 円
給湯用熱交換器更新・増設等工事	10,945,000 円

2 修繕費の推移について

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
修繕件数(件)	89	100	123	108
修繕金額(円)	19,513,448	18,272,045	28,775,519	40,097,980

3 委託費の推移について

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
委託件数(件)	87	83	91	96
委託金額(円)	246,956,664	259,496,383	258,310,742	262,747,178

主要業務委託費については、次のとおりである。

・中央監視業務委託

R1 45,491,880 円 R2 46,582,800 円 R3 47,163,600 円 R4 47,744,400 円

・清掃業務委託

R1 100,716,000 円 R2 102,537,600 円 R3 103,624,400 円 R4 103,382,290 円

・産業廃棄物処理委託

R1 24,868,103 円 R2 28,467,942 円 R3 34,303,838 円 R4 38,630,193 円

4 光熱水費の推移について

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
電気料金(円)	174,198,857	163,600,315	176,605,580	232,254,909
月平均(円)	14,516,571	13,633,359	14,717,132	19,354,576
水道料金(円)	14,939,521	15,415,928	16,573,931	19,069,809
月平均(円)	1,244,960	1,284,660	1,381,161	1,589,151
下水道料金(円)	20,758,505	20,858,807	22,695,528	25,279,563
月平均(円)	1,729,875	1,738,233	1,891,294	2,106,630
ガス料金(円)	40,310,103	43,435,044	60,192,732	73,081,151
月平均(円)	3,359,175	3,619,587	5,016,061	6,090,096
A重油(円)	21,949,536	16,315,200	25,880,800	27,548,720
月平均(円)	1,829,128	1,359,600	2,156,733	2,295,727
合計(円)	272,156,522	259,625,294	301,948,571	377,234,152
月平均(円)	22,679,710	21,635,441	25,162,381	31,436,179

(文責：村岡 浩文)

++ 広報課

1 はじめに

2022年度は、連携推進業務を行う「マーケティング係」と主に広報物等の作製及び管理を行う「広報係」から構成される「広報課」の体制を維持した。

2 スタッフ

広報課長1名、マーケティング係員2名、広報係員3名の計6名が配置されている。

3 活動報告

1. マーケティング係

(1) 連携病院訪問

2022年度は、8診療科の診療部長が、延べ131施設の医療機関等へ訪問を行い、診療体制や診療実績について説明を行った。

また、広報課による単独訪問を2月から3月の期間に285施設へ訪問し広報物の評価確認等を行った。

(2) 好生館LINE公式アカウント

・医療者向けアカウント

佐賀県内の医療機関に勤める医療者に限定してアカウントの案内をし、各診療部長による診療科紹介、研修会の案内や広報誌の案内を、動画等を用いて紹介した。

・県民向けアカウント

ユーザーを限定しないアカウントで、広く県民に健康情報を啓蒙することを目的に、身近な病気についての対処法などを、動画を用いて案内した。

(3) 県民公開講座（一般・がん）

コロナ禍以前は、院内に受講者を招いて講演会等を行っていたが、コロナ禍以降感染予防の観点から、ケーブルテレビを用いて情報発信を行った。

・一般県民公開講座

「知っ得！納得！ワクチンのあれこれ」

令和4年7月2日(土)～7月8日(金)放送

・がん県民公開講座

「知っ得！納得！がん予防と検診」

令和5年1月14日(土)～1月20日(金)放送

(4) 出張講座

佐賀市内の民生委員へ令和3年度に放送したが県民公開講座「大腸がんの話」に関するビデ

オ上映会を行い、啓蒙活動を行った。

(5) 地域医療連携講演会

新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、例年「懇談会」として開催していたが、「講演会」に替え令和4年10月21日(金)付けでホテルニューオータニ佐賀にて開催した。

県内61施設・111名の医療機関等の参加者があった。

○講演内容

・当館各センターの紹介

救命救急センター、消化器病センター、ハートセンター及び脳卒中センターの取組等を紹介した。

・特別講演

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンによる「佐賀県における急性期から慢性期までの経営戦略と連携のあり方」について、講演があった。

(6) その他の業務

・デジタルサイネージの保守管理、更新業務

・がんセンター事務局業務

2. 広報係

広報物では、総合パンフレット及び診療センターパンフレットをリニューアルした。ホームページでは、翻訳システムの入替えと共に、翻訳用の要約版サイトを制作した。その他、例年通りチラシ・ポスターの作成や、マーケティング係のコウたん公式キャラクター化に合わせ、塗り絵の制作等を行った。

(1) 定期刊行物

①好生館だより（年4回：4、7、10、1月発行）

②令和4年度版 診療のご案内（7月発行）

③年報2021（10月発行）

(2) パンフレット類

①総合パンフレット（日本語版10月）

②診療センターパンフレット：9種（10月）

（ハートセンター、ブレストセンター、リハビリテーションセンター、救命救急センター、外傷センター、周産期母子センター、脳卒中センター、がんセンター及び消化器病センター）

③医療安全ニュース バックナンバー集（10月）

④ICT・ASTニュース バックナンバー集（10月）

⑤フロア案内パンフレット（9月）

(3) ホームページ

- ① 治験・臨床研究のご紹介ページ : 10月制作
- ② 翻訳用要約サイト制作 : 12月制作
- ③ 翻訳業者入れ替え : 12月実施
- ④ Medical link office : 2月制作

(4) その他

- ① チラシ・ポスターの作成

4 今後の課題と展望

- (1) 医療者間の連携促進
 - (2) 県民・医療者への計画的な情報発信
 - (3) 病院広報のデジタル化推進と業務の効率化
- (文責：武内 美智彦)

理事室

1 スタッフ

理事室長1名、係長1名及び担当2名の計4名が配置されている。

2 活動実績

(1) 理事会の開催

法人運営の重要事項を審議・決定するため、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事会規程に基づき理事会を開催した。

■ 理事会開催状況

会議名称	開催日	主な議案等
第1回理事会	R4.6.29	令和3年度決算(案)について
第2回理事会	R4.9.16	職員給与規程等改正(案)について、理事長の業績手当について
第3回理事会	R4.11.30	佐賀県の医療職給料表(三)廃止に伴う新医療職給料表(三)の導入について、職員給与規程等改正(案)について、職員給与と改定について、看護学院規程改正(案)について
第4回理事会	R5.3.20	令和5年度計画(案)について、業務方法書の改正について、職員給与規程等改正(案)について、職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程等改正(案)について、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応特別一時金の支給に関する規程の制定について

(2) 統括責任者会議の開催

法人の業務運営や経営に関する重要事項の検討や情報の共有を行うため、毎週火曜日に常勤理事及び理事長特別補佐を構成員とする統括責任者会議を開催した。

■ 構成員

樗木理事長
佐藤副理事長（館長）
前理事（副館長）
内藤理事（副館長）
原理事（事務部長）
佐伯理事（看護部長）
相部理事長特別補佐（副館長）
草葉理事長特別補佐（薬剤部長）

■ 事務局

林副事務部長
碓副事務部長
堤理事室長

(3) 内部統制の推進

法人に対する社会的信頼を確保し法人の使命と社会的責任を果たすため、内部統制が有効に機能しているか検討・評価するために、内部統制に関するモニタリング調査を実施。

また、法人の規程・規則等の整備に当たり、法や他の規程・規則等と適合したものとなるよう各部署への支援を行った。

(4) 好生館シンポジウムの開催

例年、地域医療の中心的役割を担う病院として医療従事者のための幅広い知識習得を目的としたシンポジウムを開催。令和4年度は「COVID-19と共存した平時の医療提供体制へ」をテーマに令和5年2月10日（金）に佐賀市医師会立看護専門学校にて開催した。

■ プログラム

- ・開会挨拶
地方独立行政法人佐賀県医療センター
好生館 樗木 等 理事長
- ・特別講演Ⅰ
『医療制度改革と医療機関経営』
九州大学名誉教授 尾形 裕也 先生
- ・特別講演Ⅱ
『COVID-19と共存した医療提供体制へ』
公益社団法人日本医師会常任理事
釜范 敏 先生
- ・閉会挨拶
佐賀県医療センター好生館
佐藤 清治 館長
(文責：釜田 里奈)

++ 計画推進室

1 スタッフ

計画推進室は、室長以下、係長3名及び担当1名の計5名が配置されている。

2 活動実績

◎増築整備事業

第3期（前期）中期目標における、「好生館が担うべき役割を達成するための病院施設の在り方について早急に検討すること」を受け、2021年度に増築基本計画（以下「増築計画」という。）をとりまとめ、基本設計を行った。

2022年度は、第4期（現）中期目標により引き続き事業推進を図り、実施設計に着手、工事発注事務に必要な書類の作成及び手続きなどを行った。

3 今後の課題と展望

県とも連携し、工事発注に向けた作業を進めていく。

原油価格の高止まり、建築資材の高騰、為替相場での円安傾向など、増築整備事業の支障となる可能性のある事象が、昨年度から継続して見られることから、これらの事象の推移を慎重に見極めていく必要がある。

（文責：佐藤 隆一）

第31回 好生館医学会

年間テーマ	「医療DX」と「働き方改革」		
開催日	演題名	発表者・講師（敬称略）	参加者
7月例会 （7月21日）	・「医療DX」と「働き方改革」というテーマについて ・ICTにおける医療機器管理への取り組み ・Urine protein/creatinine ratio is useful in determining the continuation of anti-VEGF inhibitors ・重症肺炎後の脾仮性嚢胞フォロー中に左側腹部間欠痛で発症した脾内仮性動脈瘤破裂の一例	消化器外科、医療情報部 部長 田中 聡也 MEセンター 臨床工学技士 今村 亮介 腫瘍内科（臨床腫瘍科） 部長 柏田 知美 教育センター 初期臨床研修医 永島 聖恭	64名
9月例会 （9月15日）	・事務部におけるICTを活用した「働き方改革」の取り組み ・Qlik SenseによるMedical Link Doctorの働き方改革 ・栄養管理部のICTを活用した取り組みと課題 ・内科および精神科の統合的治療により劇的に精神状態が改善したカタトニアの1例	総務課 課長補佐 長友 篤志 Medical Link Office Director 松石 英城 栄養管理部 管理栄養士 武藤 愛 教育センター 初期臨床研修医 白石 理恵	61名
11月例会 （11月17日）	・オンライン版飲酒日記プログラムの効果検証研究報告 ・医療ソーシャルワーカーの業務における医療DXの活用に向けて ・画像支援にもAI～使いこなすための放射線部の取り組み～ ・原発性副甲状腺機能亢進症に合併したバセドウ病の一例	精神科 医長 角南 隆史 相談支援センター 医療ソーシャルワーカー 岩村 昌子 放射線部 主任診療放射線技師 久野 敬矢 教育センター 初期臨床研修医 井野 輔久	47名
1月例会 （1月19日）	・食道癌術前化学療法中に生じた重症低ナトリウム血症の一例 ・RPA（ROBOTIC PROCESS AUTOMATION）の導入にむけて～当館の病院情報システムでRPAを動かしてみた～	教育センター 初期臨床研修医 松尾 玲沙 消化器外科、医療情報部 部長 田中 聡也	65名
総会 （3月11日）	・2年間の研修生活を振り返って ・RPAを使って～私の代わりにロボットが仕事する～ ・SANO Vision! ～薬剤部の未来、好生館全速前進!～ ・採血業務支援システム導入による採血業務の改善と採血センターの取り組み～安心して安全な採血を目指して～ ・リハビリ部門における生産性向上と医療DXの活用 ・奈良県総合医療センターのRPAの取組紹介 ・看護管理者として考えてきたこと～看護管理のキーワードから～ ・今日までそして明日から「その人らしさ」を支えるために	教育センター 初期臨床研修医 石丸 聖人 看護部 看護師長 藤原 友紀 薬剤部 薬剤師 佐野 雅彦 検査部 副主任臨床検査技師 山口 健太 リハビリテーションセンター リハビリ技士長 片渕 宏輔 奈良県総合医療センター TQM室 システム管理係 係長 箕谷 大輔 主査 鳥居 厚志 看護部 看護部長 佐伯 悦子 リハビリテーションセンター リハビリ技士長 片渕 宏輔	108名

令和4年度 特別企画セミナー 実績

開催日	タイトル	講師
新型コロナウイルス感染症の影響により開催自粛		

令和4年度 好生館シンポジウム

開催日	内 容
2023年 2月10日 (金)	テーマ「COVID-19と共存した平時の医療提供体制へ」 <特別講演Ⅰ> 「医療制度改革と医療機関経営」 九州大学 名誉教授 尾形 裕也 先生 <特別講演Ⅱ> 「COVID-19と共存した医療提供体制へ」 公益社団法人日本医師会 常任理事 釜薙 敏 先生

令和4年度 県民公開講座

放送日	内 容 (敬称略)	講演方法
2023年 1月14日 (土) ↓ 1月20日 (金) 放送	「知っ得！納得！がん予防と検診」 総論「がん予防と検診」 がんセンター長 北原 賢二 「がん予防と食事」 栄養管理部管理長 小根森智子 1. 消化器がん(胃がん・大腸がん) 消化器内科医長 富永 直之 2. 肝胆膵がん 肝胆膵内科部長 大座 紀子 3. 乳がん 乳腺外科部長 白羽根健吾 4. 子宮頸がん 婦人科部長 安永 牧生 5. 肺がん 呼吸器外科部長 武田 雄二 6. 前立腺がん／腎がん／膀胱がん 泌尿器科部長 諸隈 太	新型コロナウイルス感染症 対策のため、 ぶんぶんテレビ、 県内ケーブルテレビ 全11局にて放送

令和4年度 病院マネジメント推進会 実績

開催日	回	テーマ		演者(敬称略)	出席者数
4月14日	第182回	保険診療研修会	保険診療の理解のために	佐賀県指導監査専門医 林田 潔 先生	62名
5月12日	第183回	メンタルヘルス／ハラスメント研修会	ストレスコーピングの初期対応／ハラスメント相談の使い方	佐賀大学医学部看護学科准教授(臨床心理学)・メンタルヘルス対策促進員 村久保 雅孝 先生	38名
6月2日	第184回	医療安全研修会	麻薬の取り扱いについて ～麻薬はどうして特別扱いなの？～	薬剤部長(医薬品安全管理責任者) 草葉 一友	70名
			医療機器の安全使用について	臨床工学技士 平野 徳章	
		院内感染対策研修会	ESBL産生菌を減らす！～当館の現状と対策～	検査部・ICT・AST 田口 舜 感染制御部 菱岡 純子	
			当館における経口抗菌薬の使用状況と適性使用に向けた取り組み	薬剤部・ICT・AST 田中 康弘	
7月7日	第185回	災害対策研修会	災害について学ぼう～過去の経験と備え～		87名
			好生館DMAT活動について	救命救急センター看護師(DMAT看護師) 吉永 司 企画経営係(DMAT業務調整員) 近藤 徹弥	
			熊本地震の経験から～備えあれば憂いなし？～	看護部長 佐伯 悦子	
9月1日	第186回	保険診療研修会	医療費の仕組みについて	医事課 入院係 森本 庸平	70名
10月6日	第187回	情報セキュリティ研修会	情報セキュリティ10大脅威	西鉄情報システム(株) ICT推進本部 プラットフォームサービス部 松岡 征矢 氏	50名
11月10日	第188回	医療安全研修会	院内迅速対応チーム(RRT)実績と今後の展望	医療安全管理部 集中ケア認定看護師 梶原 早苗	56名
		院内感染対策研修会	【緊急課題】薬剤耐性菌急増 ①2022年度当館の薬剤耐性菌検出状況	検査部 細菌検査室 佐野 由佳理	
			②薬剤耐性対策 “たかが手洗い、されど手洗い”	感染制御部 稗田 文代	
			“その抗菌薬、本当に必要ですか？”	薬剤部 AST・ICT 武富 光希	
12月1日	第189回	褥瘡研修会	好生館褥瘡対策の動向と対策 ～減らないスキンケア～	皮膚・排泄ケア認定看護師 俵 麻美	55名
		医療コミュニケーション研修会	こうしたらもっとよくなる好生館の接遇	医療コミュニケーション推進委員会 石橋 はるみ (株)アテンド 代表取締役 福成 有美(DVDによる)	
1月5日	第190回	医療安全研修会(医療ガス安全研修) (医療放射線安全研修)	医療ガスの安全な取り扱いについて	林酸素(株) 鶴田 豪生 福岡酸素(株) 伊藤 貴章	45名
			放射線の安全利用について	放射線部 技師 江口 寛晃	
			好生館における輸血医療での取り組みと課題 ～輸血関連インシデントから考える ダブルチェックの重要性～	輸血部部長 飯野 忠史 検査部 臨床検査技師 吉田 剛士	
			胃管自己抜去 あなたはどう行動する ～当院インシデント症例から学ぶ～	医療安全管理部副部長/ 呼吸器外科部長 武田 雄二	
2月16日	第191回	医療倫理研修会	医療倫理とは ～安心と信頼の構築を目指して～	佐賀大学 医学部 地域医療科学教育研究センター 准教授 坂本 麻衣子	34名

※出席者数にはDVD研修およびeラーニングによる受講者は含めていない
総合教育研修センター